



若者等への意見聴取報告書

— 次期「京都市はぐくみプラン」策定に向けて

(京都市子ども・若者総合計画)



2024.8

目 次

第1章 取組の背景及び方法	2
1. 聴取団体の概要	2
2. 意見聴取の概要	2
(1) 調査の背景・目的	2
(2) 取組の名称・設定理由	2
(3) 調査対象者	2
(4) スケジュール	3
(5) 回答数	3
(6) 調査方法	3
第2章 若者を取り巻く環境	7
1. 若者当事者からの声 ~アンケート・ヒアリング調査より~	7
(1) 多様なあそび・体験・余暇活動	7
(2) 相談環境	8
(3) 学校教育活動	9
(4) 進路・職業選択	11
(5) 結婚・子育て	11
(6) 経済的負担	12
(7) 人間関係	12
(8) L G B T Q +	13
(9) 観光・公共交通・インフラ	13
(10) 身の回りの環境	15
(11) その他	16
2. ユースワーカーから見る当事者の現状等 ~インタビュー調査より~	17
(1) 青少年活動センターの主な利用目的	17
(2) 若者が抱える困難さとその背景	17
(3) その他	18
第3章 調査を踏まえた若者施策の重要な視点	20
1. 安心して過ごせる居場所と体験・活躍機会の拡充	20
(1) 居場所を創出する機会とあそび・余暇活動の確保	20
(2) 意見表明や参画機会の拡充	20
2. 困りごとを抱える若者や自己実現に向けた支援の強化	20
(1) 特に困難を抱える若者や家族等への支援	20
(2) 若者が日常的に相談できる環境や伴走支援	20
(3) 若者のライフプラン形成に向けた支援	21
3. 若者の成長・活躍を支える担い手の確保	21
(1) 若者に関わる人材の確保及びサポート	21
(2) 関係機関・団体の連携やネットワーク構築	21

第4章 若者の意見反映に向けた仕組みづくり～若者当事者の声より～	23
0. 身近で安心できる空間づくり	23
(1) 若者の身近な場所から生まれる声	23
(2) 「わがまま」？「意見」？	24
1. 意見形成のための支援	24
(1) まち・市政等について知る機会	24
(2) 体験機会	24
2. 意見の表明や対話機会の保障	25
(1) 経済的支援・予算措置	25
(2) テーマ設定・プロセス提示	25
(3) 意見しやすい方法	26
(4) 若者・大人の姿勢	26
3. 意見の検討・反映やフィードバック及び反映結果の発信・振り返り	27
(1) 意見の検討・反映・フィードバック	27
(2) 反映結果の発信・振り返り	27
第5章 取組を終えて～メンバークロストーク～	29

配布物①

はぐくみプランの概要と完成までのプロセスを説明するチラシ



第1章 取組の背景及び方法

1. 聴取団体の概要

「ユースカウンシル¹」とは、地域に住む若者たちの声を集め、若者自身が主体となって自分たちのまちをつくっていくための仕組みである。

当団体は、（公財）京都市ユースサービス協会の「シティズンシップ形成事業²」の1つとして、令和元年5月に設立され、大学生から社会人（概ね20～30歳）が在籍している。若者の視点で、京都をさらに暮らし良いまちにすることを目指し、京都市中央青少年活動センターを主な拠点とした様々な分野のプロジェクトや、行政機関（こども家庭庁・京都市）との意見交換等を実施している。

<主な活動事例>

- ・中京区の魅力再発見！「中京区街歩きすごろく」制作（輝く学生応援アワード受賞）
- ・実践者や自治体関係者等が集い、学び合う「わかもののまちサミット2022 in 京都」の共催
- ・中高生のための「しゃべり場」（進路や学校生活等に関する語らいの場づくり）
- ・京都府知事選挙啓発アート企画「サクラ咲ケプロジェクト」及びリレー講座（京都新聞掲載）
- ・中央青少年活動センターにおける若者の居場所づくり、質問箱「ゆいいたー」の運営
- ・京都の史跡を巡るフィールドワーク「Re:これくと京都」の開催
- ・全国のユースカウンシル団体、若者議会との意見交換

2. 意見聴取の概要

（1）調査の背景・目的

令和5年4月施行のこども基本法においては、年齢・発達段階に応じて、子ども・若者の意見表明機会の確保や意見の尊重が基本理念として掲げられ、また国や地方公共団体に対して、子ども・若者施策の策定にあたっては、当事者の意見反映を講ずることが義務付けられている。

京都市においては、妊娠前から子ども・若者まで切れ目のない支援を進めるため、令和2～6年度の「京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）」を策定しており、現在では、次期プラン改訂へ向けた議論が、担当部局内や、有識者及び市民公募委員等で構成される京都市はぐくみ推進審議会を中心に行われているところである。

本取組は、次期プランの検討段階において、若者当事者やその支援者を対象に、今後の市施策に対する意見聴取を行い、京都市における若者を取り巻く環境や当事者及び支援者の声を届けることで、①次期プランへ若者等の声が実際に反映されること、②若者等の意見反映が一過性のもので終了せず、次期プラン策定後も継続して、声を聴く・届ける仕組みがあることを目指すものである。

今回の意見聴取では、若者が日常的に利用することができ、居場所や相談、自主活動等の支援機能を持つ「青少年活動センター（市内7箇所に設置）」等を主な対象とし、利用者する若者や日常的に若者のサポートを担うユースワーカーへの調査を行った。

（2）取組の名称・設定理由

名 称：「若者の声反映プロジェクト～届け!!モヤモヤくん～」

理 由：市バス混雑や観光公害等の顕在化した社会課題に対する意見のみならず、若者自身の日常生活における困りごとや願望等を「モヤモヤ」として吐き出しやすくしながら、そのモヤモヤの背景や理由を確認することで、当事者（自分事）としての本音を聴取し、次期プランの検討過程における重要な視点を模索するため。

（3）調査対象者

- ① 青少年活動センターを利用する概ね13～30歳の若者
- ② 青少年活動センター及び子ども・若者総合支援窓口の職員（ユースワーカー）

¹ 「若者議会（会議）」や「若者協議会」とも呼ばれ、新城市若者議会（愛知県）、遊佐町少年議会（山形県）、尼崎市ユースカウンシル事業「Up to You！」（兵庫県）等、全国各地で実践事例がある。

² 若者が多様なコミュニティに主体として参画しながら、政治・行政の決定過程に自らの視点で政策提案をし、若者の意見や活動が尊重・反映される社会の実現に向けた取組のこと。

(4) スケジュール



(5) 回答数

対象者	調査方法	回答数
青少年活動センターの利用者（若者）	アンケート、ヒアリング	総計783件 （うち投書687件、オンライン96件）
ユースワーカー（職員）	インタビュー	計16名
京都市内に在住、または通学・通勤等をする若者	ワークショップ	計13名

(6) 調査方法

① 若者へのアンケート（紙・電子）及びヒアリング調査

青少年活動センターごとに館内環境や若者の利用状況（主な年齢・利用目的等）が異なるため、具体的な意見聴取の方法については、各センター及び当団体間で個別に調整を行った。

また、アンケート箱の設置のみでは、調査の意図が伝わりづらいことや、回答をするハードルが高く、回収率が低くなることが懸念されたため、各センターにおける既存事業や活動団体等との連携のもと、当団体のメンバーが各センターへ出向き、回答されたアンケートを踏まえたヒアリング（意見交流）も行った。併せて、オンラインでの回答も可能とした。

本調査では、回答のハードルを下げるためアンケート用紙やチラシのデザイン・説明の記載等に配慮しつつ、単なる要望事項の集約だけではなく、その考えに至った理由や背景等を確認しながら意見聴取を進めることに留意し、取組を進めた。

実施拠点	意見聴取方法	実施場所	実施期間等	備考（実施時間等）
北青少年活動センター	意見箱の設置	拠点内ロビー	5月24日～6月29日	・投書形式 ・開館時間中
	応援メシとのコラボ企画		6月16日	・軽食の提供 ・午後3時～午後5時
	ロビーワーク		6月29日	・おかしくじ ・午後2時～午後5時
中央青少年活動センター	意見箱の設置	拠点内ロビー	5月16日～6月30日	・投書形式 ・開館時間中
	ロビーカフェとのコラボ企画		5月16日 6月1日 6月20日	・ロビーカフェ：喫茶の提供 ・木曜：午後4時半～午後5時半 ・土曜：午後2時半～午後4時
東山青少年活動センター	意見箱の設置	拠点内ロビー	6月9日～6月29日	・投票形式 ・開館時間中
	EPとのコラボ企画		6月29日	・EP：ものづくりを通じた交流 ・午後2時～午後6時

実施拠点	意見聴取方法	実施場所	実施期間等	備考（実施時間等）
山科青少年活動センター	ロビー掲示企画	拠点内ロビー	5月20日～6月22日	・投票形式 ・開館時間中
	Yicoとのコラボ企画	拠点内	6月8日 6月22日	・Yico：スポーツ等のイベント
下京青少年活動センター	意見箱の設置	拠点内ロビー	5月25日～6月25日	・投票形式 ・開館時間中
	キッチンカーとのコラボ企画	京都市立芸術大学内	5月20日 6月25日	・キッチンカー： (公財)京都市ユースサービス協会が実施する「YOUTH STAND」事業 ・午後2時半～午後5時
	イベント企画	拠点内	6月23日	・玉入れストラックアウト
南青少年活動センター	意見箱の設置	拠点内ロビー	5月26日～6月30日	・投書形式 ・開館時間中
	ワカモノ食堂とのコラボ企画		5月14日 5月28日 6月11日	・ワカモノ食堂：食事提供 ・午後5時半～午後8時
	ロビーワーク		5月26日 6月16日	・卓球大会 ・利用者との交流 ・午後3時～午後6時
伏見青少年活動センター	意見箱の設置	拠点内ロビー	5月25日～6月22日	・投書形式 ・開館時間中
	こども食堂「からふる」とのコラボ企画	拠点内ロビー	5月25日 6月8日 6月22日	・からふる喫茶・かなえる喫茶 大学生による子どもへの世界の料理提供 ・午後2時～午後6時

※ オンラインによるアンケート調査は、全拠点を対象に5月17日～6月30日に実施した。

② ユースワーカーへのインタビュー調査

若者を取り巻く環境や当事者が抱える悩みまたは願いについては、若者を対象としたアンケートやヒアリングによって声を集めた。

一方で、アンケートへの回答の文面だけでは、主訴（モヤモヤ）にある背景やその理由の把握が実際には困難であった。また、その場限りの意見聴取の機会では顕在化しづらい若者のニーズがあることや、調査期間中に青少年活動センターへの利用がなかつたり、様々な要因からアンケート等による意見表明が困難（あるいは表明しても意味がない）という者が存在することは容易に予想された。

そこで、同センター（市内7箇所）や子ども・若者総合支援窓口において、日常的に若者のサポートを担う職員（ユースワーカー）へのインタビュー調査を行い、若者からの回答等だけでは見えづらい当事者の現状や、支援者としての立場から見た、困難さに対する意見について個別に聴取した。

③ 参加型ワークショップ

今回のワークショップ開催の目的は次の2点である。1点目は、参加者同士の意見交流を生みながら、若者が抱える悩みや願い、その背景等について、より深くヒアリングすることが可能であること。2点目は、若者の意見反映の在り方について、こども家庭庁や各自治体の事例を紹介したり、根本となる若者の意見反映の意義や、先行研究等を踏まえた取組のポイント等について共有を行ったうえで、京都市における今後の仕組みの在り方を検討することである。

意見の詳細については後述するが、他の参加者の意見を聴いて考えが深まったり、広がったりしたことで自身の意見を言うことができた、プランや市政への関心が強くなった、という声が多く聞かれ、活発に議論が広げられている様子が見られた。

企画名：「子ども・若者の声が届く仕組みを考えよう！～語ろう!!モヤモヤくん～」
日 時：令和6年6月23日（日）午後2時～午後4時45分（準備時間等を除く）
場 所：京都市中央青少年活動センター 和室
(〒604-8147 京都市中京区東洞院通六角下る御射山町262 3F)
内 容：
①全体会（企画趣旨、京都市はぐくみプラン及び意見反映の意義の説明等）
②アイスブレイク
③グループワーク1（テーマ別）³
　　テーマ：「暮らしの中で感じている悩み・モヤモヤ・願いって？」
　　※「学校生活」「進路・ライフデザイン」「第三の居場所」
　　「子ども・若者が抱える困難さ」「生活圏の交通」からグループを選択。
④声を届ける仕組みに関する事例紹介（京都市・こども家庭庁・他地方自治体等）
⑤グループワーク2（テーマ共通）
　　テーマ：「子ども・若者の声が届く仕組みって？」
⑥クロージング

³ 参加者は希望テーマごとに分かれて意見交流。各班は、参加者3名及びファシリテーター1名程度の配置とした。

テーマは、各青少年活動センターでの意見聴取結果を参考に設定したが、「生活圏の交通」への当日参加はなかったため、「学校生活」「進路・ライフデザイン及び子ども・若者が抱える困難さ」「第三の居場所」とした。

配布物②

オンライン媒体での意見聴取を呼びかけるチラシ



第2章 若者を取り巻く環境

1. 若者当事者からの声 ~アンケート・ヒアリング調査より~

以下では、各青少年活動センターでの各種調査において若者から出された、日常生活での困りごとや願望等（モヤモヤ）に関する意見を記載する。

なお、回答者個人の意見や考えを尊重するため、原則、アンケート等で回答された意見を原文のままに記載しているが、読みやすさを考慮するため、当団体において独自に分類したうえで、同様の意見は一部まとめ、誤字等は修正している。

（1）多様なあそび・体験・余暇活動

①公園の整備・利用ルール

- ・ 行ける範囲に公園が存在せず、自宅外で遊ぶことができる場所も少ない。（中学生）
- ・ 公園で遊ぼうと思っても、皆が利用しているためスペースが足りない。（中学生）
- ・ 自宅付近の公園にブランコがなく、設置して欲しい。（大学生）
- ・ 熱中症対策として、公園に屋根を設置して欲しい。（中学生・大学生）
- ・ 公衆トイレの臭いがひどく、利用できない。（中学生）
- ・ 公園に雑草が多く、小さな子が遊びにくい。（社会人）
- ・ 京都市内は、球技禁止となっている公園がほとんどで、ボール遊びがしたくてもできるところがない。（中学生・高校生・大学生）
- ・ ボールが小さな子どもに当たらないように、子ども利用の専用スペースとボール遊びが可能なスペースをそれぞれ設けて欲しい。（中学生）
- ・ 公園の利用規制が厳しい。みんなが気持ちよく利用できるルールにしたい。（中学生・高校生・大学生）

②スポーツ・表現活動の場

- ・ バドミントンやバスケを北センター（北青少年活動センター）でできるようにしてほしい。（中学生・高校生）
- ・ 運動施設が少ない。（大学生）
- ・ スポーツできる施設を増やして欲しい。（記載なし）
- ・ ミュージカルの練習として無料で使えるような施設を増やしてほしい。（大学生）
- ・ ストリートスポーツがもっとできるように、コンクリートの場所をもっと増やして欲しい。（大学生）
- ・ テニスの壁打ち練習ができる場所を増やして欲しい。（大学生）
- ・ 公園内にバスケ専用のコートを設置して欲しい。バスケが上手くなりたいが、練習できる場所がほとんどない。（中学生）
- ・ 蓋掛広場（下京区）に屋根を設置してほしい。ダブルダッチは動作音（足音・縄）が大きいため、基本的に屋外での練習になるが、雨天時に練習ができない。（大学生）
- ・ ヘルスピアがなくなり、安価に利用できるプールが周辺になくなつた。（社会人）
- ・ 学生が裏方も含めて本格的に使えるようなホールを安く貸し出してほしい。サークルで使いたいが学生が借りられる値段じゃないところがほとんどなので、一年前から長期間の予約ができる以前までのアバンティ響都ホールのような場所が欲しい。（大学生）

③体験・余暇活動の機会

- ・ 学校以外の教育活動の場が欲しい。（大学生）
- ・ 家ではなくどこかにいってする方がやる気が出るので、いろんなことができる場所がほしい。（中学生）
- ・ 伏見に青少年センターみたいな施設をもっと増やして欲しい。（高校生）
- ・ 青少年活動センターのよう無料で自習出来たり、休憩したりできる場所が欲しい。学生が気軽に立ち寄れる施設が少ない。（高校生・大学生）
- ・ 水曜日も青少年活動センターを開けて欲しい。サークルの活動日なので、開いていないと活動できない。（大学生）

- やることがなくて暇すぎる。外にあまり出かけないので、家でゲーム以外にすることがない。
(中学生・高校生)
- 大学でボランティア活動を探しているが、京都のボランティアの情報は多いが大阪や兵庫のボランティアの情報が少ない。
(大学生)
- ボランティアサイトなど、参加方法や参加者の生の声などを知れるような機会をもっと設けて欲しい
(大学生)
- 社会人でも参加できるよう、土日に参加可能なボランティアの選択肢がもっと増えて欲しい。
(社会人)
- いつも遊ぶのに千円以上かかる日が多いので、無料で遊べるところがほしい。
(中学生)
- 学生が遊べる場所が少ない。カフェで過ごすにはお金がかかるので、もっと安くで過ごせる場所が欲しい。
(記載なし)
- 家で寝るだけでなく、時間を有効活用できる場が欲しい。1日を有意義に使いたい。
(大学生)
- 座席が多く、子連れや学生が利用しやすい図書館が欲しい。
(高校生)
- 子どもだけでなく、若者や大人の居場所も増やしてほしい。
(大学生)
- 小学生が行ける範囲に、小学生が楽しめる場所が欲しい。
(大学生)
- 習い事の場所が遠く、通うのが大変。
(中学生)

④コミュニティ

- 市民の人々が明るく、仲良くなれるような交流活動。
(中学生)
- 青少年センターのように色々な人と出会える人が欲しい。
(高校生)
- 知らないことや知らない世界を教えてくれるような人と出会える環境があれば良い。自分はそのような人がいてくれて凄く良かったと思っている。
(社会人)
- 世代問わず、交流できるコミュニティを作りたい。
(大学生)
- 一人暮らしがさみしいから、話し相手が欲しい。
(大学生)
- 国際交流ができる場を通して、日本で友達が欲しい。
(社会人※外国籍)
- 自分のバックヤードを知っている人が誰もいない環境。校区内の場所だと自分の背景を知っている人がいて気まずい為、知り合いが一人もいない場所の方が落ち着く。
(高校生)
- 目上の人やら大人の方と話せるようになりたい。積極的に大人の方たちの会話を混ざりにいけず、会話も続かないでコミュニケーション力をもっとつけたい。
(大学生)
- 不安を表に出すことが出来る場所が欲しい。
(社会人)

⑤自習スペース

- 図書館で勉強したいが、自習が禁止されている。
(中学生・高校生・大学生)
- 無料で静かに自習ができるスペースを設けてほしい。
(中学生・高校生・大学生)
- しゃべりながら勉強できるラフなスペースを設けてほしい。
(高校生)
- 無料自習室がほしい。
(高校生)

(2) 相談環境

- 両親の問題を誰かに相談したら解決につながるのか、家庭内で抑えるべきことなのかが分からない。そもそも大ごとにしたくないし、どうしたらいいのか分からない。
(大学生)
- 妹がひきこもり。どうにかしてあげたいが分からない。
(大学生)
- 家族のことや友達のことなど身近な人の事について相談できる人が居なかった。学校に相談すると親に伝わってしまうので、親に知られたくないことを相談するのが難しい。
(記載なし)
- 家の中でも価値観が違うことで、なかなか相談ができずモヤモヤしている。
(大学生)
- 家族のことや進路のこと、将来への不安などを気軽に相談したいが、どこに相談したらよいのか、誰に相談したらよいのかわからない。「身近な人に相談したらよい」と言われるがそれが怖い。
(記載なし)
- ひきこもりや障がい者等、同じ悩みをもった人とフランクに話せる場や、大学・アルバイトのことについて少し年上のお兄さんお姉さんに相談できる環境が欲しい。
(大学生)
- 日本で働いている外国人の相談窓口を身近に欲しい。あるとは思うが、情報が得にくい。
(社会人※外国籍)

- ・ 支援母体が変わる（病院なのか行政なのか学校なのか）と、その度に支援が途切れる感覚がある。「切れ目ない支援」とは？（大学生）
- ・ 良い病院を知らないで、病気の時に困る。ひとり暮らしが多く地域になじめていない。（大学院生）

（3）学校教育活動

①校則・制度等

- ・ 家から学校まで離れているため、自転車通学を可にしてほしい。（中学生）
- ・ 仕方ない時の遅刻に関しても罰則が厳しい。（高校生）
- ・ 豪雨のとき、私立の学校は休みだが公立は休みにならない。（高校生）
- ・ 伏見中学校、スマホOKにしてほしい。（記載なし）
- ・ 中学校の制服がダサい。街を歩いたり修学旅行で他府県に行ったりするのが恥ずかしい。（大学生）
- ・ 飛び級制度がほしい。授業がつまらない。周りを気にせず能力を発揮したい。（中学生）
- ・ みんな同じペースで受ける授業をやめてほしい。苦手な子は置いていかれて、得意な子はつまらなくなっている。一人ひとりに合わせた学習にしてほしい。（中学生）
- ・ 洛水高校のバイク免許取得を許可して欲しい。（高校生）
- ・ アルバイト、ピアス、染髪、スマホ、ツーブロック、アクセサリー、OKにしてほしい。（中学生、高校生）
- ・ 校則にうるさい。染めてないのに疑われる。（高校生）
- ・ 髪を染めていないのに、染めているのかと聞かれた。（高校生）
- ・ 過去に校則違反をしたせいか、今は何も違反していないのに注意を受ける。（高校生）
- ・ 授業中に違うことをしている人がいるため、学校でのiPadやスマホの使い方の規則を厳しくしてほしい。（中学生）
- ・ 学校から交通費の援助をしてもらえる範囲が限られ過ぎている。もらえる範囲内でも3000円程度で誤差。（高校生）
- ・ 学校に通うための交通費の援助を拡大して欲しい。（高校生）
- ・ バスと地下鉄の学割が欲しい。（記載なし）

②教職員の対応

- ・ 相談しやすい先生（優しい、話しかけやすい、圧がない、常識がある、怒るときは怒る）。（中学生）
- ・ 生徒によって態度を変える先生がいて、成績にも関わってしまうことがある。平等な態度で接してほしい。（中学生）
- ・ 吃音で悩んでいた時に、どうすれば良いか先生にも一緒に考えてほしかった。（社会人）

③授業・課題・テスト

- ・ 7時間授業は長すぎる。自由な時間が少なく、好きな事をする時間や睡眠時間が短くなる。（高校生）
- ・ 授業時間が増えて、友達と遊べなくなった。（中学生）
- ・ 理工学部の課題が多く、サークルやアルバイト等に打ち込む余裕がない。（大学生）
- ・ 学校でテスト前に開かれる「学習会」の時間を増やしてほしい。分からぬことを聞ける時間ももっと増やしてほしい。平日に勉強する習慣をつけたい。（中学生）
- ・ 中間テストがないため、1回のテストで人生を決めている感覚。（高校生）
- ・ 他の学校よりテストが多くて自分の時間が奪われるため減らしてほしい。（中学生）
- ・ 選挙を扱う授業を増やし、投票率を上げることで、若者の声を政治に反映させたい。（中学生）
- ・ 学校での問題集の配布が少なく、習ったことをアウトプットできる手段がない。（社会人）
- ・ 問題集がなく、家で自習する材料が減った。先生もその理由は分からぬらしく、せめて納得できる理由がほしい。（中学生）
- ・ 勉強と部活、習い事の両立が難しい。テストと部活の大会が同時期にあり、体力的にも精神的にももたない。（中学生）

- ・みんな思春期なのでプールの授業をなくしてほしい。（中学生）
- ・履修の細かい説明、相談しやすい先生がほしい。（大学生）
- ・オンデマンド授業がほしい。（大学生）

④体験・交流機会

- ・他校の学校と運動会をしてみたい。学校内でしか交流することができない。（中学生）
- ・私立高校にある企業との合同企画の機会を国公立高校にも欲しい。（高校生）
- ・開拓高校の協創会議をなくしてほしい。提案しても実行されることがないし、その時間をもっと有意義に使うことができると思う。（高校生）
- ・他学年と仲良くなれる機会がほしい。（中学生）
- ・違う学校の人と関わる場所。（高校生）
- ・全日制の人と会って話してみたい。通信制の場合、全日制の人と関わる機会を持つことが出来ないから。（高校生）
- ・社会人の人に仕事の話等を聞ける機会。将来の進路選択に役立つと思う。（高校生）
- ・外国人と交流したい。（高校生）
- ・学外活動の紹介をしてほしい。（大学生）
- ・受験を経験した人と話せる機会をつくってほしい。面接等の模擬受験をしてみたい。（中学生）

⑤校内環境・施設設備

- ・学校があまりきれいではない。トイレをきれいにしてほしい。（中学生）
- ・高校の寮がきたないため、よくしてほしい。（高校生）
- ・年々気温が高まっているため、熱中症にならないよう公立高校にエアコン完備してほしい。（高校生）
- ・水道の水がにごっている。出てくる水の量が均等でないため、洗うのに時間がかかる。（中学生）
- ・ネットの回線が遅い。（記載なし）
- ・教室の黒板が消しにくい。（中学生）
- ・桃陵中学校の雨漏りしているところを直してほしい。（中学生）
- ・全中学校にプールを設置してほしい。水泳部に入れなかつた友達がいる。（高校生）
- ・勉強に集中できる静かな場所が欲しい。（中学生）
- ・公立中学、高校の校舎の新しさ、きれいさの差が激しい。（大学生）
- ・府立高校の体育館の雨漏りが直らない。暖房が全然つかない。（大学生）

⑥部活動

- ・外での部活は2時間だが、体育館なら4時間。中も暑いため体育館での部活も最大2時間程度にしてほしい。（中学生）
- ・部活の時間を増やしてほしい。公式戦のときランダムで対戦相手が決められるが、練習量がそれぞれのチームで異なるため不公平。（中学生）
- ・部活動によって大会や受賞の取り上げ方に差がある。マイナーな部活（例：ウェイトリフティング部）の評価が低い。全国大会優勝や金賞をとっても新聞の記事に小さく載る程度。（高校生）
- ・部長をやっていて悩んだ時、顧問の先生と話す時間がほしかった。（大学生）

⑦給食

- ・おかずが冷たくて美味しい。（中学生）
- ・副菜が多い。（中学生）
- ・中学校で給食が食べたい。小学生の時の給食は美味しかったが今はお弁当。（中学生）

⑧人間関係

- ・生徒会役員というだけでいろんな人から「何でも出来る人」に見られて、それがプレッシャーに感じる。（中学生）
- ・部活動内が大変な状況でも、練習の時間を作らなければならず、時間が足りない。（記載なし）

- ・ 体育の授業中、自分の中のベストを尽くしているのに、上手くいかなかった時にチームメイトから文句を言われるのはイライラする。 (中学生)
- ・ 大会前なのに、後輩たちの統率がとれておらず、キャプテンとしてしっかりしたいと思いつつ、当たり前の事が出来ていない様子を見て困惑している。 (中学生)
- ・ 誰かが、怒られた後の空気がとても苦手で、楽しかったことも楽しくなくなるので、授業中やテスト中の時はせめて静かにしてほしい。あと、騒ぐのに先生からの授業中の質問には答えないあの空気感と、挙手して発言したら先生に媚を売っているとうわさするのもやめてほしい。 (高校生)
- ・ 当時小学生だったため仕方ないが、吃音に対する周り (友達) の理解が得られず悩んでいた。 (社会人)
- ・ 周りにもっと適任がいると感じるがキャプテンになってしまい気まずい。 (高校生)

⑨その他

- ・ 高学年になっても通える学童が増えて欲しい。自分が通っていた学童は他の学校の子と一緒に高学年まで利用できて、その後は同じ中学校へ進学したので有難かった。 (高校生)
- ・ 登校時間が長いため、睡眠時間が確保できず眠たい。 (高校生)
- ・ 昼寝の時間がほしい。 (高校生)
- ・ 他の市や県のように、夏休みをもっと長くしてほしい。 (中学生)

(4) 進路・職業選択

- ・ 就職活動が長すぎて、学業に集中できない。 (大学生)
- ・ 年金や退職金がないため、将来に向けてお金を貯めなければいけない。 (記載なし)
- ・ (就職の) 進路が決まらない。自分が何をしたいのかよく分からず、お金のことばかり考えてしまう。休みが1日 (日曜日だけ) は無理。 (高校生)
- ・ 就職活動に備えて、キャリア形成の授業をもっと増やしてほしい。京都にどんな企業があるのかもっと知りたい。 (大学生)
- ・ このまま京都に住み続けたいが、志望する職種や業界が東京や大阪の都市圏に集中している。 (大学生)
- ・ 就職に備えて、社会人になるにあたって必要な一般教養を学びたい。ビールの注ぎ方や上座の位置など。 (大学生)
- ・ 就活が不安。社会に出る心の準備ない。 (大学生)
- ・ 将来何をしたいのか分からない。自分の強みや得意なことを知る機会がない。 (大学生)
- ・ 「この学校に行ったらこの進路」逆に「この進路に進むためにはこの学校」というのが絞られている感覚。一度決めると変更が効かない。 (大学生)
- ・ 周りの人や環境の影響によって自分で決める機会を持つことが出来なかつたり、自分に対する自信を失ってしまっている。 (大学生)
- ・ 自分で決めるための土台を築くことができるよう、若者である時期に様々な体験を通して、自分の価値観を形成できる機会をもっと増やしてほしい。 (大学生)
- ・ 自身が将来に何をしたいのかをじっくりと考えるための時間的猶予が欲しい。外国では、大学への入学前から就職するまでの時期に、留学やインターンシップ、ボランティア等の社会体験活動を行うための猶予期間 (ギャップイヤー) が設けられている。日本での留学や長期のインターンシップへの参加には、留年や休学を強いられたり、そのために就職活動に影響が出ることを不安視したり等、ネガティブな要素も伴ってくるため、このような期間や機会が公的に認められると嬉しい。 (大学生)

(5) 結婚・子育て

- ・ 子どもも親もサポートしてくれる民間事業を増やしてほしい。行政は事業が多いが制限が多くて厳しい為。公的サービスの拡大はどうか。 (大学生)
- ・ 子育てしやすい環境を作りたい。他県を見ていると18歳まで医療費が無償であつたり、子育て支援の補助が充実したりする。産みやすいも大事だが、育てやすい環境が欲しい。 (高校生)

(6) 経済的負担

①物価・賃金

- ・ 学生はお金がなく、アルバイトで稼ぐ必要があるため最低賃金をあげて欲しい。（大学生）
- ・ 最低賃金は低いのに、物価高は続いている生活が苦しい。（大学生・社会人）
- ・ 物価が高く、ご飯を食べられない。お腹すいた。いっぱいのお金が必要になる。（中学生）
- ・ 物価が高く、買いたいものが買えないため、物の値段を安くして欲しい。マクドナルドやラーメンも高い。（中学生・高校生）
- ・ 給料が低いのに、物価が高く生活がしにくい。（社会人）
- ・ ひとり親家庭で、アルバイトもしているがお金が本当にはない。サークル費が高いことや、友達がお金持ちはないので、正直かなり辛い。（大学生）
- ・ 京都市内の物件の値段が高い。京都が高いため、子育て支援も充実している滋賀に住むという人が周りでよく聞く。（高校生・大学生・社会人）
- ・ 今の給料だと一人暮らしは厳しい…。副業を始める予定だが、できれば仕事一つで賄えるようにしたい。（社会人）
- ・ 家賃やモノの価格が高い。お金がなければ生きていけないと、ひしひしと感じてしまう。もっとアルバイトすればいいと思われるかもしれないが、勉強が疎かになるのも不安。（大学生）
- ・ 友達と遊ぶために、お金がたくさんかかってしまう。（中学生・高校生）
- ・ アルバイトができず、中高生の交通費負担が大きくて大変。（高校生）
- ・ 飲食店はどこも観光地用の価格になっていて高い。（社会人）
- ・ 物価が上がっている中で、年収103万円の壁が上がらず、お金が足りなくなっている。好きなことをすることができない。（大学生）
- ・ 税金や電気代が高い。（高校生・大学生）

②補助制度

- ・ 家賃が支出の大半なので、若者に対する家賃補助を充実させてほしい。もしくは住民税を安くして欲しい。（社会人）
- ・ 医療費が高く、学生の自分にとっては病院や歯医者に行きづらい。無償化や小中学生と同じ200円にするなど、医療費負担を減らして欲しい。（高校生）
- ・ 地域通貨「べる」を本屋で使えるようにして欲しい。（記載なし）

③学費・奨学金

- ・ 京都府の学費が高いため、大阪を見習って欲しい。好きなことを学ぶのに、高い学費を払わないといけないと、通える学校の選択肢が限られてしまう。（高校生）
- ・ 学費が高く、減額や奨学金の返済処置が手厚くなっている。親の金銭的な援助が少なく、進学・就職後も大変。（大学院生）
- ・ 留学してみたが、お金がなくていけない。（高校生）
- ・ 奨学金を借りないと進学できない。将来何年もかけて借金を返すことを今から考えないと気が不安。（高校生）
- ・ 複数の学校を受験するのに、受験料がたくさんかかってしまう。受けたい学校が受けづらくなっている。（高校生）

(7) 人間関係

- ・ 年齢の差だけで理不尽に怒られるのは嫌だ。（高校生）
- ・ サークル等で交友関係は広まったものの、立場上の心の悩みを話せるような場所がない。（大学生）
- ・ 今まで仲が良かった人が急に冷たい態度になりさみしい。このままひとりぼっちになるのが不安。（中学生）
- ・ 複数人で行動すると誰かが孤立しがち。（小学生）
- ・ 友達と遊ぶ約束をしていたのにそれが守られなかった。裏切られた感じがする。（中学生）
- ・ 殴ってたり、いすで押してたり。（小学生）
- ・ 嫌な事を言われたり、無視されたりする。（小学生）

- ・ ご近所さんに挨拶しても返してくれない。 (社会人)
- ・ 殴られたり、椅子で押されたり暴力を振るわれる。 (小学生)
- ・ 上のひとから怒られないようにするために、下の人注意する連鎖が途切れず、下の人の不満もとまらないため、ちょうど中間にいる自分の位置で不満が溜まっている。 (大学生)
- ・ 恋人がほしい。 (中学生・高校生・大学生)
- ・ 周りの雰囲気についていげず疎外感を感じる。 (大学生)
- ・ 恋人に対してのモヤモヤがある。 (大学生)
- ・ 好きな先輩がいるが気まずくて話せない。 (中学生)
- ・ 家庭や自分の背景のことを知っても変わらず関わってくれる人。自分の家庭が経済的にしんどいという自分の背景を知っても、特別扱いなどをせずに知る前と同じように関わってくれる。 (社会人)
- ・ 自分が道を踏み外さないように助けてくれる人 (社会人)
- ・ 自分の為に何かできることは無いか?と沢山動いてくれる人。 (社会人)

(8) L G B T Q +

- ・ 自分も含めて L G B T Q + の人がもっと生きやすい世界になってほしい。 (中学生)
- ・ 周囲からなかなか理解が得られず、相談できない。校則を変えようとしても、世間での風潮をそのまま当てはめているだけでは、日本は良くならないと感じている。 (中学生)

(9) 観光・公共交通・インフラ

①観光客の混雑・マナー

- ・ 店や交通でマナーのない観光客が大量にいる。 (中学生)
- ・ 観光客が邪魔になっている。 (中学生)
- ・ 観光客が多すぎて三条や祇園を歩きにくく、生活圏なのに使いにくくて諦めてしまうことがある。 (大学生)
- ・ 蹤上周辺が観光客で道を塞がれていて、自転車で通ることができない。道を広げてほしい。
- ・ バスで外国人が急に大声を出して迷惑になっている。円安という状況なのだから少しくらい制限を厳しくしても外国人は来るはずなので、オーバーツーリズムをなんとかして欲しい。 (高校生)
- ・ 外国人が写真を撮ってくるのをやめて欲しい。 (中学生)
- ・ 観光客に焦点を当てた政策ばかりが目立ってモヤモヤ…。 (大学生)
- ・ 海外の人への道案内をわかりやすくしてほしい。 (大学生)
- ・ 人が多くて不便。 (大学生)
- ・ 観光客が多く、道を塞いでいて通りにくかったりする。迷惑行為と自覚していない人もいる。 (大学生)
- ・ 旅行客がどこでも多く、人で溢れているため出かけづらい。 (高校生・大学生・社会人)
- ・ オーバーツーリズムで、人が多過ぎて暑い。 (大学生)

②バス

- ・ 市原～国際会館間のバスの時間の間隔が長い。30分も待ちたくない。 (高校生)
- ・ 精華大学の人が多くて乗れないことがあるので、北陵高校直行バスを国際会館から出して欲しい。40、52系統のバスを増やして欲しい。 (高校生)
- ・ バスの値段が高い。 (高校生)
- ・ 市バスの座席が減って荷物スペースになってしまい、座れなくなった。 (高校生)
- ・ 市バスの混雑を解消して欲しい。バスに乗れなくて大学に遅刻する。 (大学生)
- ・ バスの遅延を改善して欲しい。交通(自転車)整備をしてほしい。 (大学生)
- ・ 市バスが終わる時間が早い。23時をすぎると基本終わってしまっている。 (大学生)
- ・ いつもバスに乗れない京都駅発で、市民専用のバスを作って欲しい。 (その他)
- ・ 市バスが観光客で混雑しそうしている。 (中学生・大学生・大学院生)
- ・ バスを観光客と分けて欲しい。 (大学生)
- ・ 市バスの202系統が少ないので、7時のバスを増やして欲しい。

- ・ バスの到着が遅れると電車の乗り換えに間に合わないので、遅れるのはやめてほしい。 (大学生)
- ・ 観光客で仕方ないのはわかるが、混雑していて乗る気にならない。 (大学生)
- ・ バスの待ち時間が長いので運行本数を増やして欲しい。 (記載なし)
- ・ 市バス205が乗れないほど人が多い。 (大学院生)
- ・ 小学生の頃よく使っていてトライカカードが便利だったが、無くなってしまってとてもショックだった。 (高校生)
- ・ 市バスを使いたいのに遠くまで行く気がなくなるので、一日乗車券 (500円) を住民だけでも買えるようにしてほしい。 (社会人)

③道路

- ・ 信号の待ち時間が長すぎる。 (中学生)
- ・ 歩道橋しかないところに横断歩道をつけて欲しい。 (高校生)
- ・ 道路がガタガタしている。 (高校生)
- ・ 道路が狭く、人や自転車と当たりそうになる。 (高校生)
- ・ 鴨川の道がガタガタしていていやだ。 (高校生)
- ・ 死角が多く、狭い道が多いのに加えて自転車が右折や左折をする際にスピードを緩めないため、何度か事故を起こしそうになった。 (その他)
- ・ 市内の通学路は大きい道路がすぐそこにあったりして車の量が多いため危険。 (記載なし)
- ・ 自転車専用レーンを全ての道路に作って欲しい。 (大学生)
- ・ 歩道が狭い。 (大学生)
- ・ 危険なので道を広くして欲しい。 (中学生)
- ・ 道が狭いため一方通行が多くて不便。 (社会人)
- ・ 鴨川沿いにサイクリングロードが欲しい。サイクリングするのに車道も歩道も危ない。 (大学生)
- ・ 中学校の周りに歩行者信号がなくて危ない。 (高校生)
- ・ 通学路が危険なところが多いので、横断歩道を増やして欲しい。 (中学生)
- ・ 自転車で車道を走らないといけないが、危険なところが多い。 (大学生)
- ・ 道路の段差が大きいところが多くて自転車で通ると前カゴに入れている荷物が落ちてしまう。 (大学生)
- ・ 自転車の通る場所がなくて肩身が狭い。 (大学生)
- ・ 自転車専用の道路あるのに歩道側を自転車が走っていることが多くて歩行者があぶない。 (専門学校生)
- ・ 路駐していることが多くて道が狭い。 (高校生)
- ・ 自転車が通れないところが多い、押して歩きたくない。 (大学生)
- ・ 観光地から一本道がそれたところの道路が荒れている。旅行客に気持ちのいい体験をしていただきたいから、観光地を中心に道路工事の跡を綺麗にして欲しい。 (記載なし)

④電車・駅

- ・ 地下鉄料金が高い。 (大学生)
- ・ 阪急の京都駅が欲しい。 (高校生)
- ・ 京都駅に京阪線を伸ばして欲しい。 (大学生)
- ・ 洛西ニュータウンまで電車を走らせてほしい、何をするにも自転車で20分ほど走らないといけないし、高齢者も多いため移動手段も増やして欲しい。 (大学生)
- ・ ホームにガードが付いていないところが多く人身事故が多い。 (大学生)
- ・ わざわざ改札口の前で喫らないで欲しい。 (大学生)
- ・ 京都市営地下鉄に人が乗りすぎていて通学が大変。 (大学生)
- ・ 地下鉄が高く、値上がりが続いている。 (大学生)
- ・ 観光に来ている旅行者が多く、地下鉄などの電車が満員。 (社会人)
- ・ 学生と観光客で満員なので稻荷駅の電車を増やして欲しい。 (大学生)

- 精神障害の手帳を持っているが、どこの交通機関で使えてどこで使えないのかがややこしい。また、人のいる改札まで行かなければならず、乗車や下車のたびに手帳を見せるのに人の目が気になので障害者用のICカードを作って欲しい。（中学生）
- JRの本数が少なくて、待ち合わせなどに早すぎるか遅すぎるかしか着けない。（大学生）
- 京都駅、中央口と八条口の行き来を楽にして欲しい。（大学生）
- 叡電の車両を増やして欲しい。朝の時間帯に乗れない人がいたり、多くの人が座れず立っている。（高校生）
- 駅のベビールームが無いところが不便、全ての駅や施設に作って欲しい。（記載なし）
- 京都駅に無料の飲食スペースがほしい。（大学生）
- JR嵯峨野線が乗れない・乗るまで時間がかかる。（大学院生）

⑤その他

- トイレをもう少しいろんなところに設置して欲しい、祇園祭などでトイレに行きたくても行けない。（記載なし）
- 駐輪場が少ない、すぐに閉まってしまう。（大学生）
- 山科では地下鉄の駅などの駐輪場が少なくてその駅から遠い人が大変。バスが通っていないところもあるので、駐輪場がたくさんあれば自転車を使う人も増えると思う。（中学生）
- スーパーが近くになく、買い物時に不便。（大学生）
- 放置自転車の撤去をやめてほしい。大学生はお金がない。景観保護のためであれば路駐している車も撤去すべき。（大学生）
- もっとWi-Fiを増やして欲しい。（大学生）

(10) 身の回りの環境

①ごみ・清掃

- ごみの分別がややこしい。可燃ごみとプラスチックの分別にいつも悩んでおり、可燃ごみと一緒に捨てたい。（記載なし）
- ゴミの分別が出来ていない人が多い。（大学生）
- 観光客が多い場所では、ごみ箱の数が少なく、ごみが路上に落ちていることが多い。ごみ箱の数や容量を増やして欲しい。（中学生・高校生・大学生）
- 道端や鴨川にポイ捨てされているゴミが多い。マナーが悪く、捨ててはいけない場所に捨てられている。（中学生・高校生・大学生）
- たばこをポイ捨てされると火事が起きたりして危険。（高校生）
- ゴミ拾いを学校か自治体単位で取り組んで欲しい。（中学生）
- ゴミ収集車の回収が早い。朝8時には収集してしまうので、他の場所と比べて早過ぎて困っている。（大学生）
- 駅に設置されているごみ箱の数を増やして欲しい。飲み終えたペットボトルやティッシュ等を捨てようと思った時に、すぐに捨てられる場所が少ない。（記載なし）
- 雨が降った時の東寺の堀から悪臭がする。（中学生）

②受動喫煙・歩きタバコ

- 歩きタバコをやめて欲しい。煙が臭く、服につくと気になってしまう。（高校生）
- 色々な場所がたばこくさい。（高校生）
- 観光客（特に海外から）の人が路上等で喫煙をしているため、煙を吸ってむせてしまう。自宅が金閣寺近くで、ルールを守らない人をよく見かける。（高校生）
- 禁煙区域での喫煙をもっととりしまってほしい。喫煙所からの匂いもなんとかして欲しい。商店街でも細い道や通りと通りの間で路上喫煙している人をよく見かける。（中学生）
- タバコの匂いが辛い。喘息持ちで呼吸困難になるので、決まった場所で喫煙してほしい。タバコは緩やかな自殺、受動喫煙は心中くらいに思っています。喫煙者は高い税金を払ってくれているので、ありがたい存在ではあります。京都市は禁煙だと思っていましたが、道端で普通に喫煙している人をしばしば見ます。大学に以前、近隣住民から苦情が入りましたが、果たしてどうやって一般人ではなく学生だと確認したのか気になるところですし、大学の近くの鞆屋では高齢の女性がよく

タバコを吸っていますので、そちらを先にどうにかしてほしいと思ってしまいます。ますます京都が苦手になります。（大学生）

- ・ルールを守らずに、路上で喫煙をしている様子をよく見かける。（大学生）

③治安

- ・登下校中に子どもが事件・事故に巻き込まれるニュースをよく耳にするので、子どもが安心して過ごすことができるまちであってほしい。（社会人）
- ・壁への落書きや迷惑行為が目立つ。（社会人）
- ・学校付近の治安が悪いと聞くので、出かけづらい。（大学生）
- ・信号をしっかりと守って欲しい。危なくてよくぶつかりそうになる。（中学生）
- ・不審者が多い。（中学生）
- ・置き傘がよく盗まれる。（大学生）
- ・子どもの多い地域なのに車の運転が荒い人が多くて困る。（大学生）
- ・ぶつかりそうになることが多くて危ないので信号をしっかりと守って欲しい。（中学生）
- ・夜間にバイクや車などの交通の音がひどい。（大学生）

（11）その他

①京都市財政・施策全般

- ・財政赤字で市民が苦しんでいる。施設等への入場料をあげて、収入を増やして欲しい。（高校生）
- ・財政難で市民サービスが少なくなっている。学生が将来京都市に残らなくなるのでは…。（大学生）
- ・京都市の財政破綻に危機を感じている。なんとか借金を返済して欲しい。（中学生）
- ・観光税や市バス税を取るのはどうか。（中学生）
- ・市バスや地下鉄の経営が苦しいのに、庁舎改修をしている余裕はあるのか。（高校生）
- ・現代の楽市楽座のような制度をつくって、企業を積極的に誘致して、それを市の資金源にできなか。（記載なし）
- ・コロナ給付金のときなど、市の判断が遅い。大阪のほうが対応が早く充実している。今の状態が続くなら、住むのは大阪。（高校生）
- ・外国人だからこそ借りれない、保証人が必要な場合があり、家が借りれない。（社会人※外国籍）
- ・都市部は栄えていて、郊外は栄えていない。観光業に力を入れたいなら、各地に観光地を置き、1日でまわれないようなバスを作ったらしい。（中学生）
- ・各県から移住者が増えて子育てしやすい町を実現したい。働く場所は有り余っているので労働人口を確保して、その人たちが子育てをしてまた人口が増える好循環を生み出したい。（中学生）

②市広報

- ・「京乃つかさ」という広報キャラを最近あまり見なくなった印象。せっかく素敵なキャラクターがいるのに、あまり使われないのは少し勿体無く感じる。コストをかけて手にした大事な資源なので、もっと京都市の管轄内で使ってもいいと思う。（高校生）

③イベント

- ・花火大会やお祭りをもっといろいろな場所で開催して欲しい。（高校生）
- ・スポーツ大会や宝探しなどのイベントを増やしてほしい。（中学生）

④その他

- ・京都人は言葉に裏があつて怖いと言われる。そんなことないのに！（大学生）
- ・京都の住所が難しく、手紙を書くときや人に尋ねるときに分かりづらくて困る。（高校生）
- ・SNSの有毒性が気になる。嘘の情報がたくさん出回っているように思う。（大学生）
- ・動物園の入園料を高くしないで欲しい。京都市民料金を作つて欲しい（社会人）

2. ユースワーカーから見る当事者の現状等 ~インタビュー調査より~

京都市内の青少年活動センター（以下センター）は、京都市内に在住、通勤又は通学する青少年（概ね13歳から30歳まで）が利用できるが、その利用目的やそれぞれの若者が持つ背景、困難さは様々である。

以下では、日頃センターを利用する若者に関わるユースワーカーへのインタビューを行い、そこで得られた利用者の特徴や抱える課題について記述する。

（1）青少年活動センターの主な利用目的

①余暇時間を探して [居場所機能]

個人や少人数での利用者は、放課後や休日に友人同士で遊んだり、ピアノの練習をしたり、常駐するユースワーカーと交流をしたりしながら、過ごす様子が多く見られる。

また、京都市内では無料で学習できる場所が自宅以外に限られることから、属性や校舎を問わず、自習目的での利用が非常に多い。特に休日や定期考查・受験期直前は、ロビー内や自習室が満員となることもしばしばである。

さらに、センターによっては、卓球やテニス等のスポーツを利用者が誰でも自由にできる時間が設けられていたり、軽食の提供やものづくりに関するプログラム、ロビー等での利用者同士の交流企画があるなど、センターごとに特徴がある。

②活動機会を探して [体験・参画機能]

グループでの利用については、主に大学生等のサークル活動が多くを占め、会議室や音楽スタジオ、料理室といった部屋利用がほとんどである。大学内で利用できる場所がなかったり、他施設に比べて使用料が安価なため、継続して利用しやすいという声がある。

また年齢を問わず、ボランティア等の自主体験活動への参加に関するニーズも高く、清掃活動や農作業、といった短期的（単発）のものから、学習支援や居場所づくりの運営協力等の中長期的な事業に参加する若者もいる。

③相談環境を探して [相談機能]

利用者からユースワーカーへの相談内容は、学校や将来への不安、家族関係、自主活動への支援等様々である。

関係性が良好ではない家族間でのトラブルの際に、本人からの依頼のもと、ユースワーカーが仲介しながら当事者と家族との話し合いの場を設け、対応したという事例もあった。

また、若者本人だけではなく、例えば不登校や未就労の保護者からも、相談依頼があることが多い。内容に応じて、センター内のプログラムを紹介したり、地域の支援団体等に繋げたりしている。

（2）若者が抱える困難さとその背景

①経済的困窮

自宅で食事を十分に摂ることができていなかったり、学費を全て自分で稼いでいる、学費を貰えないため進学を諦めている等、経済的な困難さを抱える若者がいる。中には、生活保護や就学・就労支援等に係る補助制度や支援機関の存在を知らず、受益できていないこともある。

特に、大学生のような高校卒業以降の者は、家族等の保護下にある中学生・高校生期に比べ、自己裁量の大きな行動や判断が増えてくるため、上述のような支援に辿り着きづらい状況にある。

②教育・進路選択

自分自身の適性やしたいことが分からぬいために、就職活動や就労の際に漠然とした大きな不安を抱えている。中には、進路が未決定のまま、卒業を迎えている若者もいる。

その背景としては、学習面または人間関係での躊躇等による不登校、休学・中途退学や、時間的・経済的制約による経験・体験の不足といった進路選択に影響する困難さがあることに加え、その困難さを相談できる相手が存在せず、悩みを抱え込んでいることが挙げられる。

また、各家庭や地域においては、支援学級や支援学校に対する偏見が強い場合があり、保護者の意向等によって、子ども・若者自身が必要な教育的支援を受けられていないのでは、と感じることもあるという。

③人間関係

学校での友人や教職員、部活動等の先輩後輩との関わりに苦慮していたり、恋人との関係性や恋愛相談といった悩みを、中高生から聞くことが多い。

一方、大学生については、コロナ禍においてオンラインやオンデマンド授業が普及したことや、高校までと異なってクラスが存在しない場合があることから、友人関係の構築の難しさを感じている若者が一定いる。

また、ひとり親家庭や共働き家庭の場合、若者自身にその他の居場所が無ければ、孤立状態に陥りやすい。このような状態が長期間続くことによって、誰にも相談できないまま、当事者が抱える悩みや課題が深刻化・複雑化し、自身にとって問題であると認識できない状態に至っている様子も見られる場合もある。

④若者が過ごす空間・時間・コミュニティ

若者が、周囲の環境を気にしそぎずに、遊んだり活動をして、伸び伸びと過ごせる場所が少なく感じる。大学内のスペースも十分ではなく、サークル等の自主活動を行うための場所の確保に困っている声が多い。

そもそも、多くの若者が勉学や部活動、アルバイト、就職活動等に追われ、余暇の過ごし方を自由に選ぶことのできるだけの時間を十分に確保することが難しい状況に置かれている。

また、（1）③のとおり、就学・就業していない若者本人や保護者から居場所を求めて相談がある。新たなコミュニティに所属したいという想いはあっても、新しい環境では自己開示しづらく、疲弊しやすかったり、心身の状況や障がい等の理由により、参加を継続することが困難になっていることもある。

（3）その他

①必要な支援への繋がり

青少年活動センターや子ども・若者相談窓口等の存在が、対象となる若者や地域に十分に知られておらず、本当に支援が必要な人に行き届いていないケースがまだまだ多いのでは、という懸念の声も多く得られた。

さらに、実際に青少年活動センターや相談窓口に繋がった後も、面談で自己開示に苦慮することがあるといい、ユースワーカーが継続して若者と関わることで、少しずつ自分が抱える困難さや悩みを言葉に出来るようになる。時間をかけて関係性を築きながら、見守り、対話を重ねていく中で、本人が意識していなかったところに気づきを得られたり、相談できる環境があるということを若者に知ってもらうことが重要である。

②若者を取り巻く「当たり前」の意識

経済的困窮やヤングケアラーの状態にある若者が、自身のその状態を当たり前のもの、あるいは仕方がないものと思い、誰にも相談しない（できない）状況に陥っていたり、あるいは、心身の不調等によって全日制への通学が厳しいと感じつつも、「全日制高校へ進学しなければいけない」と若者自身が考え、自分を追い込んでしまっているケースがあるという。

若者を取り巻く、社会的通念上の「当たり前」や「正解」を問い合わせし、アップデートしながら、若者一人ひとりが自分らしく過ごすことができる環境づくりが必要では、という意見もあった。

配布物③

ワークショップの開催を周知するチラシ

第3章 調査を踏まえた若者施策の重要な視点

これまでの回答を踏まえ、若者当事者及び支援者（ユースワーカー）への各種調査結果が示唆する、京都市での若者施策を検討するうえで重要となる視点は、以下のとおりである。

【重点視点】

1. 安心して過ごせる居場所と体験・活躍機会の拡充
2. 困りごとを抱える若者や自己実現に向けた支援の強化
3. 若者の成長・活躍を支える担い手の確保

1. 安心して過ごせる居場所と体験・活躍機会の拡充

(1) 居場所を創出する機会とあそび・余暇活動の確保

今回の聴取では、特にあそび、学習、スポーツ、表現活動など、子どもだけでなく、若者自身が思い思いに過ごせる居場所や活動拠点を求めている声が多く得られた。

若者の持つ多様な力が発揮される社会づくりのために、家庭、学校、地域などそれぞれの空間が、一人ひとりにとって安心できる環境として機能しながら、多様な「ヒト」・「モノ」・「コト」と出会い、学び、体験や経験を重ねながら、自己実現に向けて成長できる機会や魅力ある場を創出することが求められている。

また、若者の住む場所や経済的事情といった背景によって、その機会への繋がりが制限されることなく、自由に選択できることも重要であると考える。

(2) 意見表明や参画機会の拡充

施策や場づくり等が検討される過程においては、関係する当事者自身が自分の考え方や意見を表現することができ、その声が十分に聴かれ、対話を重ねていくことで、若者を取り巻く環境やニーズ、困難さが的確に踏まえられ、施策等がさらに効果的なものになることが期待される。

また、自らの声に耳を傾けられ、その声をきっかけとして社会（家庭・学校等の身近な場所を含む）への影響や変化が生まれた経験は、その場での安心感や充足感を生み出すことだけではなく、自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、大人とともに社会をかたちづくる当事者としての意識を醸成する機会となる。

その際には、意見形成・意見表明のための支援が必要であったり、様々な背景から、当事者の声が聴かれづらい、参画しづらい者がいることにも留意が必要である。

2. 困りごとを抱える若者や自己実現に向けた支援の強化

(1) 特に困難を抱える若者や家族等への支援

特に困難を抱える者についても、成育環境や背景によらず、若者一人ひとりが自分らしく生き生きと過ごし、成長できる環境づくりも重要である。

また、支援制度自体は存在するが、直面する状況を「仕方がない」と諦めていたために、必要な情報を得られず、経済援助等の支援を受けられなかったという声が得られたほか、一方では同じ困難さを抱える若者やそのケアを担う家族に向けた講演や、当事者同士の交流、ピアサポートの場によって社会的孤立が防がれ、状況の前進に繋がったという声もあった。

加えて、支援に繋がったものの、その後対象年齢を超えた際の連携先がなかったり、制度の狭間に生きる若者も多く、制度や仕組みを利用できない若者へのサポートが行える仕組みづくりも求められている。

(2) 若者が日常的に相談できる環境や伴走支援

上述のような、特に支援施策の対象となる場合だけではなく、学習や進路、友人や家族等との人間関係といった悩みや不安を抱えながらも、相談できる相手が身近にいない、どこに相談すれば良いのか分からず、といった若者からの声が多数聽かれた。

また、支援者側からは、相談のために若者が来所した場合でも、本人が意図的に主訴を隠していたり、本人でさえも自身が本当に必要としている支援に気づいていない場合があり、短期的な支援では、核心となるニーズや課題に気づくことができず、適切な支援が難しいという意見もあった。

困難を抱える若者への支援や、若者の社会参画機会の創出は、単に相談窓口へ来所することで解決するものではなく、それを契機として第三者が継続的に関わりながら、中長期的に伴走的支援が行われ少しづつ若者自身の潜在的な想いが言語化されていくことで生まれていく。

特に、家庭や学校、さらには青少年活動センターのような日常的に若者が過ごす空間においては、日頃から対話や相談等を行うことができる関係性の構築やその機会が身近にあることが重要であり、さらには、相談内容に応じて関係機関や支援団体等へ繋ぐためのネットワーク形成が必要である。

(3) 若者のライフプラン形成に向けた支援

大学生や若手社会人からは、就職や結婚・子育てに向けた住居の検討の際に、京都市外への転居を検討しているといった声が得られた。

就職活動段階においては、志望する職種や業界が京都市内ではなく、東京都や大阪府などの都市圏に集中していることや、市内企業とのマッチングの機会があまりないこと等が挙げられた。

また、住居（賃貸・購入・新築）の検討時においては、経済的事情や利便性、さらには子育て支援制度の充実度を踏まえると、隣接する他府県や京都府下の自治体のほうが良いと感じる、との意見があった。

ライフステージが移りゆく中でも、良質な雇用環境や所得が京都市内において十分に確保され、居住・子育て環境等に関する経済的及び心理的な負担が少なく、一人ひとりが自らのライフプランを自由に選択しながら、将来への展望を持って生活できるような取組の充実が期待されている。

3. 若者の成長・活躍を支える担い手の確保

(1) 若者に関わる人材の確保及びサポート

若者が居場所を獲得しながら、自ら考え、選択し成長・活躍できる社会づくりに向けては、若者への支援者や関わる大人等の人材確保も重要な要素である。

それは、教職員やカウンセラー、ソーシャルワーカー、ユースワーカーや社会福祉協議会及び児童福祉施設・NPO等の職員といった、教育・心理・福祉等の専門職だけではなく、日常生活において、第三者として身近な大人あるいは若者同士等が、見守り、支え合い、時には行動を促すような多様な担い手（若者への関係人口）の存在が必要となる。

また、その安定的な支援や関わりを確保・促進するためには、支援者・関係者等への日常的なサポートやノウハウの共有等、担い手自身が安心して適切に関わりをもつことができる環境づくりを求める声もあった。

(2) 関係機関・団体の連携やネットワーク構築

若者が抱える複合的な課題や潜在的なニーズに対しては、ライフステージに応じながらも、切れ目なく支援を行う必要がある。そのためには、教育、保健福祉、経済、都市計画等の分野や組織の枠組みを超えた総合的な取組の推進が必要となる。

行政や大学等の研究機関、企業、NPOといった関係機関、あるいは地域がそれぞれにおいて取組が充実されるとともに、相互に連携をしながら、知見の共有や取組の協働・分担が適切になされ、一人ひとりの状況に合わせた、切れ目のない支援の充実を図ることが求められている。

配布物④

三つ折りにして卓上に設置する三角ポップ



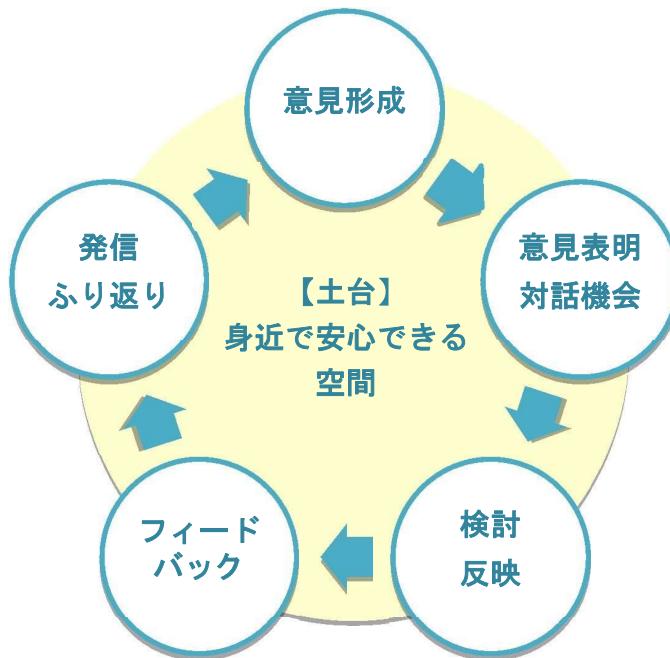
第4章 若者の意見反映に向けた仕組みづくり～若者当事者の声より～

第1章及び第3章で述べたとおり、若者も大人とともに社会をかたちづくるパートナーとして、若者自身の意見表明や参画の機会が拡充されていく仕組みが求められている。

その仕組みには、行政機関から若者に向けて意見を聴取する機会のみならず、日常を過ごす空間において、いかに声が聴かれるような場づくりができるか、といった視点が必要である。

今後の京都市において、どのような仕組みづくりが必要だと思うか、若者から聴取し、集約した意見を以下に列挙する。

【循環型子ども・若者の意見反映モデル】



0. 身近で安心できる空間づくり

(1) 若者の身近な場所から生まれる声

- 突然、アンケートやインタビューで意見を求められても、皆がみんな、すぐに意見を出すことは難しい。普段過ごしている場所における、日常の関わりで出た何気ない言葉を拾ってくれる機会があると嬉しい。
- 悩みを言語化することって難しい。普段の友達や大人との会話の中で出るような些細な声でも拾ってくれて、聴くだけで終わりだけでなく、意見を必要なところに届けてくれる、意見を全体の場に持ち出してくれる人がいてくれるととても良いと思う。
- 青少年センターのように普段の勉強スペースや遊び場となる場所があり、その慣れた場所や知っている人（知っていて安心できる人）のほうが、公的な相談機関へ行って相談するよりも、話がしやすそう。
- 何をしても、しなくとも良い場所がもっと広がってほしい。居るだけで存在を受け止めてくれる場所であれば、自分の気持ちを少しずつ出せると思う。
- 様々な理由で自分が頑張れない状況にあったとしても、否定せずに耳を傾けて受け入れてくれる人がいると、安心して本音を言える。「頑張れ」という言葉が、どうしてもしんどい時もある。

- ・自分の過去の話をちゃんと聞いてくれる人がいると話しやすい。意見は自身の過去の体験や経験から来ているものだと思うので、そのことを受け止めてもらえる機会があると嬉しい。
- ・普段から、学校や身近なところで意見を出す練習ができれば。なかなか自分の意見を言う機会がなく、思うことがあっても言わずに終わってしまう。言いやすい環境や人、意見を出す体験と届いた実感が欲しい。

(2) 「わがまま」？「意見」？

- ・意見を言ったとしても「若者のわがまま」と捉えられ、結局は何も変わらないのでは、と感じてしまう。
- ・「わがまま」と一緒に整理しながら、意見に変えてくれるような人が欲しい。兵庫県尼崎市では、一人の若者が市へ届けた声をきっかけに、スケートボードパーク設置に向けた動きがある⁴。考える人によっては「わがまま」とも捉えられるような意見でも、市を動かせるような意見になるのだと思った。
- ・子どもや若者が「わがまま」と考えているモノも、意見の種だということを教えてくれて、「わがまま」を意見に変えていくお手伝いをしてくれる人や環境が存在するといいなと思う。

1. 意見形成のための支援

(1) まち・市政等について知る機会

- ・京都市のことや、自分の身の回りに関する情報を、事前に学ぶことができる機会があると、意見が少しでも言いやすくなるのでは。
- ・現状の予算や行政の取組について、分かりやすく解説した情報を、市からたくさん発信して欲しい。現状を知ることで、多方面の意見形成につながると思う。
- ・学校へ出前授業をして欲しい。市が提供する出前講座を学校で活用することで、たくさんの学生が満遍なくその講座を受けられ、市のしくみや経済のことについての知識を得ることができ、将来ためにもなる。先生の負担も増えないのではないか。
- ・子どもの権利や身近な社会問題について、授業等で取り扱って欲しい。自分の置かれている環境を悪い意味で当たり前と感じていると、相談したり意見をしたりする機会を逃してしまう。
- ・学生や若者等が、京都市公式SNS（例：「京都市役所学生部」等の名称付き）の運営に携われるなど、子ども・若者がより求めている情報（イベント、講座、生活に関する情報等）の発信に繋がるのではないか。

(2) 体験機会

- ・色々な先行事例を見たり、体験できるような機会が欲しい。市の施策や今後の取組を考えるためのヒントになると思う。例えば、滋賀県の「子ども県議会」⁵では、小・中学生が子ども議員となり、滋賀県内各地での体験活動や勉強会を通じて、意見を練ったり考えたりして、県に対する提言や質問をしたりしている。
- ・体験したい機会や学びたいことを、子ども・若者から提案できるしくみがあつてほしい。東京都町田市の「子ども委員会」⁶の取組が印象的。子ども・若者の「やりたい」をベースに、どんな体験

⁴ こども家庭庁HPより

https://www.cfa.go.jp/assets/contents/node/basic_page/field_ref_resources/23b61f95-016b-4ec9-a93e-7e79c4b53bd8/4fb6a308/20230401_councils_shingikai_iken_senmon_23b61f95_15.pdf

⁵ 滋賀県HPより <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kosodatekyouiku/kosodate/300359.html>

⁶ 町田市HPより <https://www.city.machida.tokyo.jp/kodomo/kosodateshingikai/kodomocenter-unei-iinkai/index.html>

をしたいのか聞いたり提案してもらったりすることで、意欲的に参加でき、内容もより当事者に寄り添つものになりそう。

- ・ 小・中学生のうちから、体験機会や職業体験がもっと増えて欲しい。中高校生の時期は、受験の合格や卒業がゴールになっており、自分の将来や街のことについて考える機会がなかった。
- ・ 小・中・高校生の頃から、将来のことについて想い描くきっかけになったり、段階的に考えられる材料をたくさん用意してほしい。中高生向けのインターンシップなどがあれば、働くことやまちのことを知る機会にもなるのでは。
- ・ 子ども・若者向けのデモ選挙を体験したかった。18歳になって選挙権をもったとき、選挙に参加することは大切だと思ってはいたが、どのように投票先を決めればよいのか、選挙が実際にどのように行われるのか分からず、戸惑いを感じた。
- ・ 様々な人と繋がって交流できるよう、青少年活動センターのような場が増えて欲しい。人と出会って一緒に色々な体験をしたことで、視野を広げるきっかけになった。
- ・ 日頃の学校の授業等で、自分の考えをまとめて意見を伝える力を養いたい。考えるきっかけがないと、いきなり意見を言うことは難しい。話すことによって意見も深められ、色々な視点からの意見を出すことができる。

2. 意見の表明や対話機会の保障

(1) 経済的支援・予算措置

- ・ 意見を出しても、金銭的な理由によって却下されることが多い。予算等の支援可能な範囲を示してもらえると、意見する側も自身で判断できることが増え、発言にも責任を持てる。
- ・ 予算措置が十分にされたうえで、公的な子ども・若者向けの議会や提案できる機会を設けて、そこで決定された案に金銭的な支援を行うはどうか。意見を出しても予算上の都合だけで却下される経験を少なくし、意見反映の実感を増やすことが大切だと思う。
- ・ 若者向けの予算を毎年確保して、意見を聴くための姿勢を市としても示してもらえると、真剣に考えて意見しようと思える。愛知県新城市の若者議会⁷のように、子ども・若者が主体となって行う活動を応援する姿勢を示すことが大事ではないか。
- ・ 市が若者団体や地域団体と連携・助成する仕組みがあると、内容がさらに充実したり、お互いの負担軽減にもなるのでは。
- ・ 声を聴くためにも人員が必要。子ども・若者の周りの大人を確保して、意見をいつでも聞いてもらえるような環境整備が必要では。

(2) テーマ設定・プロセス提示

- ・ 子ども・若者にとって、意見を言いやすいテーマ設定にしてほしい。実体験に基づいた悩みや困りごとについて考えることは取組やすいが、いきなり施策について考えたり、抽象的すぎる問い合わせになると、自分の考えがまとまらず思考が止まってしまう。リアルな市民感覚や課題感について市民が意見を出し、それを踏まえながら必要な施策について段階的に考える仕組みができると良さそうだ。
- ・ 大人や行政が設定した議題だけでなく、子ども・若者が話したいテーマを考えられたり、いくつかの選択肢から意見をしたいテーマを選べる機会が欲しい。意見をする側は、より想いを乗せることができるし、効果的な施策の検討に繋がると思う。

⁷ 新城市若者議会HPより <https://wakamono-gikai.jp/whats>

- ・意見を聞く段階から、出した意見がどう検討されていくのか、プロセスを提示してほしい。あらかじめ検討されるスケジュールが分かると、意見を言った後の流れをイメージしながら話すことができる。

(3) 意見しやすい方法

- ・いきなり大人数や、大きなテーマについて意見を言うことは難しい。小さな規模から少しづつ自信をつながら、段階を踏んで意見を形成したい。
- ・クラス→学年→学校→地域…のように少しづつ規模を大きくして意見をまとめていく機会があると良い。最初はクラス内で意見を話し合いつつ、次は学年全体など規模を大きくしていくような仕組みができないか。
- ・一定の期間、同じメンバーで話し合える機会があると嬉しい。初対面の人ばかりでは、緊張してなかなか話せないし、意見の背景を知ってもらえる機会が増えて共感しやすくなるので、議論が進めやすいと思う。
- ・子ども・若者だけや、大人の目が少ない場だと気兼ねなく意見を言える。大人の目線があると、自分への評価や見え方を気にして、意見を出せない若者がいると思う。
- ・自分と同じ経験をしている共感者がいると、悩みが伝わりやすく話がしやすい。また、不登校や病気、家族に関する悩みの経験など、同年代や少し年上の経験者からの体験を聞くと自分だけではないと思って、安心できる。
- ・市長や行政職員など施策を考える人が、学校に意見を聞きに来てくれる制度はどうか。自分から出向いて話することはハードルが高いが、普段生活している場所に来てもらえたと意見が言いやすい。
- ・学生や若手の社会人等、同年代が主催するイベントだと参加しやすい。行政主催の企画に併せ、学生や社会人が自分軸で企画運営するイベントを開催してはどうか。主催側は経験値や主体性・積極性を得られ、参加者側は自身にとって身近（等身大）な話題について触れ、共感し合える機会となる。
- ・平日の日中に意見聴取の場があっても、学校や仕事、アルバイトがあるので参加しづらい。平日の夜や土日にもそういった機会があるといい。
- ・SNSやオンラインでの意見募集だとハードルは低いと思う。匿名性があり、若者が使い慣れているXやInstagramを使用すると意見を集めやすいと思う。
- ・掲示板等で、同じ思いの仲間を募集でき、発信できる仕組みが欲しい。思いを共有できる人がいると意見が言いやすい。
- ・アンケートを実施する際は、簡単で答えやすいものにして欲しい。
- ・意見の受付期間中に間に合わなかった人の意見も拾える仕組み（思いついたときに発信できて、拾われる受け皿）があるといい。平日の日中ではなかなか出向いて相談できない為、土日や祝日に相談できる制度を充実させてほしい。
- ・色々な背景の人がいると思うので、特定の方法だけではなく、複数手段で意見が聴かれる仕組みになってほしい。
- ・意見聴取の場では、メンターのような助言・フィードバックをしてくれる第三者がいると話しやすい。意見を客観的に見てもらい、こうすればできる、伝わる等評価をもらえると新たな観点や見方を発見でき、さらなる意見形成にもつながる。

(4) 若者・大人の姿勢

- ・意見をする人も聴く人も、お互いが責任を持ちながら対話していくことが大事。意見を言う側も、好き勝手に何でも発信すれば良いというわけではない。よく考えながら意見を発信しつつ、そ

の意見を聞く側も意見を丁寧に扱いながら、お互いの信頼関係を築き、若者と行政（大人）との溝のようなものを埋めたい。

- ・ こども基本法やこども大綱ができたから、仕方なく声を聴くのではなく、おとなが自主的に子ども・若者の意見に耳を傾け、一緒に考えてくれる存在になってほしい。
- ・ 余裕を持って、話を聞いてもらえる時間が欲しい。忙しい雰囲気では話しくく、十分に自分の思いを伝えることが出来ない。時間のゆとりがあると、自分の思いを伝えやすくなる。
- ・ 意見は否定せず、一旦受け止めてほしい。受け止めて聞いてもらえたと、少しずつ言葉にできるし、次も意見しようと思う。
- ・ 学校の先生と、気軽に相談できる関係性になりたい。子どもの悩みや困りごとを身近でリアルに聴くことができる貴重な存在だと思う。
- ・ 若者も大人もいかに「自分ごと」として考えられるかが大事では。一緒に学んだり、対話をしたりしながら、一緒に解決していくという意識を持つことが大事。
- ・ 子ども・若者の意見よりも、大人の意見の方が優れているというような偏見や先入観を無くしていきたい。学校などで先生に意見をした時に、「生意気」と認識されることがあった。

3. 意見の検討・反映やフィードバック及び反映結果の発信・振り返り

（1）意見の検討・反映・フィードバック

- ・ 意見を言って終わりではなく、その後も行政職員や大人と一緒に若者も検討できる機会があるといい。対話を重ねることで、意見が反映されるためにはどのような工夫が必要なのかともに考えることができ、検討結果への納得もしやすくなると思う。
- ・ 出された意見について、「〇〇〇〇だから難しい」とできない理由を並べて否定的な返事ばかりするのではなく、意見として尊重されて一度受け止められ、何が課題なのか、どうすれば実現できるのかと一緒に考えたい。
- ・ 固定観念等の偏った考えを無くして、実際のニーズや状況などの客観的な材料をもとに判断してほしい。
- ・ どういった経緯で声が反映されたか（またはされなかつたか）が見える化されてほしい。特に反映できなかつた場合にその理由を具体的に知ることができると、若者自身の納得感も高まつたり、別の提案ができたりする。
- ・ 発信した意見の進捗がわかると意見を聞いてもらった実感につながり、さらなる意見を言うきっかけにもなるのでは。反対に、意見の検討や反映までに時間が掛かつたり、検討状況が見えないと意見が反映されているのか分からず不安になる。

（2）反映結果の発信・振り返り

- ・ 実際に若者から出された意見で反映できたものを、市から社会へ発信してほしい。どのような意見が出されて、どのように検討されたのかが分かることで、他の若者も意見を伝えるきっかけになつたり、京都市全体が子ども・若者の声を聴く土壤づくりに繋がるのではないか。
- ・ 事例集を作成してほしい。京都市のホームページやSNSアカウント等のアクセスしやすい場所にまとめて閲覧できるようになるといいと思う。
- ・ 意見を反映した後も、その後どうなったのか実態を把握して評価し、改善していく必要があると思う。はぐくみプランも、策定して終わりではなく、その後定期的に見直しながらどのような施策が必要となるのか振り返りをしなければ、お飾りになってしまふ。評価や今後の取組の検討段階で、若者も参画できる仕組みがあるといいのでは。

配布物⑤

意見聴取用のアンケート用紙（表面・裏面）

“

ニックネーム

年齢 () 歳

所属
中・高・専・大・院・社・その他()

モヤモヤ／願い

それはどうして？できれば詳しく教えてね

この内容を他の人に見せてても良い？

OK · NG

©南青少年活動センター

“

ニックネーム

年齢 () 歳

所属
中・高・専・大・院・社・その他()

シクシク／願い

それはどうして？できれば詳しく教えてね

この内容を他の人に見せてても良い？

OK · NG

©南青少年活動センター

あなたの声を聴かせて
下のイラストやキーワードを参考にしてみてね

こども・若者の権利	コミュニティ	安心・安全	こども・若者の声が届くしくみ
相談できる人・環境	経済的負担	健康	アルバイト
家族	将来への不安	あそび 体験活動	居場所
学校教育	LGBTQ+	いじめ	結婚 子育て

あなたの声を聴かせて
下のイラストやキーワードを参考にしてみてね

こども・若者の権利	コミュニティ	安心・安全	こども・若者の声が届くしくみ
相談できる人・環境	経済的負担	健康	アルバイト
家族	将来への不安	あそび 体験活動	居場所
学校教育	LGBTQ+	いじめ	結婚 子育て

第5章 取組を終えて～メンバークロストーク～



手探しの連続だった、若者の声集め。

まい：今回は、声を集めて届けるっていう、めっちゃ「ユースカウンシル」っぽい取組やったと思うんですけど、ここまで終えた率直な感想を教えてください。

いっせい：難しすぎだろ…！！って感じでしたね（笑）全部、ほんまに全部なんですけど、どんな方法で進めていけばいいのか、手順が見えなさすぎて、常に手探しの感じで。かなり時間もかかったじゃないですか。何ヶ月も。そのプロセスを1個1個丁寧に重ねながら進めしていくのが、本当に難しかったです。

ちはる：私はやっぱり、テーマ設定とか聞き取りの仕方。どうやったら答えやすいのか、考えてもらいやすいのかを考えた時期がいちばん悩んだというか、苦労したなと思って。でも、まだ年齢が近い私たちだからこそ、「この聞かれ方のほうが答えやすいな」っていうのが分かることはあると思うから、私たちでやれてよかったと感じています。

たかと：京都市と一緒に協働していく中での難しさもあったなと思っていて。自分たちが、どんなことを聞きたいかだけじゃなく、それを今後どのように次のはぐくみプランや市の施策へ反映させていくのか、そういうところのプロセスを考えて進めていくことはすごい大変で、それを踏まえながら、若者の率直な思いとか声っていうのをどう拾っていくのか。そういう事前段階がとにかく苦労したなと思っていて。どんな設問が良いの

か、どんな方法で聞くのかが良いのかいうところを結構みんな頭を悩ませていたし、でも答えてくれる人が少しでもこの取組が「自分ごと」となるように、っていうのをみんな大事に考えてくれたと思うので、だからこそ、こんなにリアルで、率直な声が集まったのかなと思います。

まい：個人的な感覚としては、取組が始まってしまらば完成像というか全体像がなかなか掴みきれなくって。今になって、やっとこんな感じから分かったような気がしていて。

いっせい：それな。（一同：（笑））

まい：それこそ、あんまりこういうことをされている自治体が他にないから、どこか前例を参考にしてイメージしようとしてもなかなかできないし、ちはるちゃんが言ってくれたみたいに、私がやっているからこそその言葉遣いでったり、テーマ設定を工夫したいけど、どうしたらいいのか…っていう難しさもあって。ずっと分からぬ、分からぬ、って言いながら進んできた感覚。

一緒に取り組んだから見えた、大人の姿勢。

ちはる：この取組は、正直難しいなって思うことの方が多かった。でも一方、それを進めるうえで、京都市役所の方と一緒にミーティングしたり、ユースサービス協会の職員の方にヒアリングさせてもらったりして、若者に関わろうとしてくれている大人の姿勢というか、熱い、



激アツな想いを感じ取れたことががすごい良かった。これを知らないまま、はぐくみプランを見ても何も思わなかつたんやろうなと思うけど、こんな真剣に、対等に接してくれて、意見を受け止めてくれて、議論が発展して、みたいなことが出来たからこそ、大人に対する見方が変わるじゃないんですけど、自分たちもちゃんとやっていかなアカンなっていう気持ちが生まれたというか。その姿勢を見せてもらえる機会ができたことも、このプロジェクトすごい意義があったことやなと思いました。私今いいことしてる！って。



まい：確かに実際、休日出勤なのに日曜日に来てくださったりとか、勤務時間外やのに南センターでのワカモノ食堂を覗きにきてくださったりとかして、こんなに前向きに関わってくださるんだな、っていうのが良い意味で意外でした。

いっせい：行政との距離感が近く感じられた気がする。今まで、「京都市や、ふーん、遠い存在やな」って感じやった。

意見を言語化することの難しさ。

まい：私たちのプロセスとしては、まずは事前準備と聴取段階がある。さらに、その聴取段階の中にも、意見を形成する段階と実際に聴取する段階がある。その後に集約っていう流れがあったと思うんですけど、それぞれの最中に気遣っていたこととか、生まれた悩みとか、やったからこそ気づいたこととか、印象的な出来事があれば、それぞれ教えて欲しいです。

たかと：「モヤモヤくん書いてくれん？」「意見したいこと何がある？」って聞いた時に、それをすぐに言語化することってめちゃくちゃハードルが高いんやなって改めて思って。青少年活動センターへ利用者のヒアリングに行ったときに、「京都市へ意見したかったり、困っていることある？」って聞いたら、やっぱり思いつきやすいのか、出てくるのは市バスや観光客での混雑のことばかりで。もちろんそれも大事なんやけど、なかなか自分の身近なところ、自分自身にもっと深く関わる部分っていうのはなかなか出てこないなって感じた。意見聴取を始めた段階でも、最初は意見がすごく交通にばかりに偏ったけど、本当に自分自身が困っていたり、不安に思っていることを考えるための声掛けとか、キーワードの提示しながら対話していくと、「確かにこんな悩みあるな」「こういうことも書いていいんだ」という反応を中高生や大学生たちはしてくれたなと思っていて。意見を形成するためのきっかけというか、自分がこういうことを悩んでいる、こうすることにモヤモヤしているなっていう気づきのための機会とか手助けができるような仕

掛けっていうのがすごく大事なんだなっていうことを感じた。

まい：はじめ、交通のことばっかり意見が出てきた時は…。

たかと：頭抱えたよね（笑）

まい：こういうことになるのかっていうか。それで、いっせいくんと一緒に山科で意見聴取をするときに、掲示用に自分たちで一旦見本を書いてみようと思って、それぞれ書こうとしたんですけど…。

いっせい：実際書こうとすると、自分たちも何て書いていいのか全然分からなくなってしまって。

たかと：逆に、それ書いてもらおうと思った時にどういう声掛けとか工夫をしてた？

いっせい：僕とまいさんが南センターへ行った時に、ロビーの自習室で勉強している高校生に声を掛けて、いつも通りの聞き方でヒアリングしてたんですよ。でも、なんか伝わってないなというか。そう思ったときにユースワーカーさんが「大人になってから何十年後も、京都に住みたいかって考えてみたらどう？」って話をしつらう、すらすら書いてはって。聞き方ひとつでこんなに変わるんやなって思った。

まい：なんやろうね。広く集められるって意味では、こっちのテーマ設定としてモヤモヤっていう漠然とした感じがいいかなというのはあったけど…。実際、ここに住みたいかって将来のことをイメージしてみると、だいたいみんな「うーん…」って言うんですよね。その「うーん…」っていう感覚が取っ掛かりになるというか、「どんなことで引っかかるてる？」って聞いたら、わりと書ける子が多いかな。それってどうしても将来のイメージ像っていう部分に限った内容になってしまうかなっていうのは懸念点としてあるけど、方法のひとつかな。

いっせい：聞き方って難しいよねっていうことよね。

たかと：それが1番大きいんやろうね。これを一步間違えたら全然違う内容になったんやろうし。「こういう施設・建物とか遊び場がほしい」みたいなことだけに偏つても違うと思うし。



いっせい：となると、こういう意見聴取もアンケートの回答だけじゃなくて、実際に若者当事者と会話をする中で一緒に考えていくような対話のプロセスが、若者が抱える想いとかを的確に抽出するひとつの方法になるんじゃないかなって思った。

ちはる：でもやっぱり、誰に聞かれるかは大事なんやなって思ったというか。ほんまに知らん人にいきなり聞かれても困っているんやろうなって、今回特に思ったから。もしこれが私たちじゃなくて、市の職員さんとか、ほんまに全然知らない大人の人たちがてなったらもっとハーダル高いし、より今回のモヤモヤくんでもそうやったけど、「みんなが困ってそうやな」とか「みんな欲しいと思ってるやろうな」みたいな声が多くて、「自分はこうしてほしいです」みたいな想いを聞くのが難しかったし、自分で考えてみても、「これって私だけかな」って思ってしまうことがあって、声にならない想いっていうのがあって、そこをもっと聞き取る余地があったかなって思った。

いっせい：あと場所も大事やなと思った。今回センターやったから、若者からしたら第三の居場所というか、少しでも心許せる場所っていう空間に自分たちが行ったから、向こうも意見をまだ表明してくれたというか、想いを出してくれたけど、これを駅とか路上でやっても絶対無理じゃないですか。って考えたら、センターっていう場所も大事やなって思ったりしてました。

日常の中で、声が聴かされること。

たかと：今回は改めて、はぐくみプランを作るうえでの意見を聞いていったけど、今回の取組を通じて思ったのは、いかに日常の場、普段過ごす場において、小さな声でも、そもそも出していいんだって思えるのかとか、あるいは声を出したうえで、それが十分に受け止められていることとか、さらには、それがちゃんと必要なところに届いていく、みたいな実感がなかなかないと、何を意見したら良いのか分からぬといふのもあるだろうし、意見しようと思えるかどうかみたいなところも大きく変わってくるんだろうなと思っていて。それは、プランがあるからどうこうという話ではなくて、今子ども家庭庁とかでも、子ども・若者も大人と一緒に社会をつくっていく存在だっていうことを発信しているけれど、そういう意識をどんどん浸透させていかなきゃいけない。それはやっぱり身近な生活空間の中からちょっとずつ培われていくものなんだろうなと思うので、そういったところがこれから京都市の中で広がっていって欲しいなって思うところです。



まい：身近な中で土台が出来上がって、聞く側としては、土台部分にいられている大人の存在というか、そういう存在の人との関係性をつくるのも大事なんやなと思って。今回でいうと、私の場合はユースワーカーさん。例えば、若者食堂に入っていて、利用者の子が、話してみたいなどは思ってくれていたらしいけどちょっと勇気がなくて、どうしようどうしようって女子高生が友達ふ

たりでわちゃわちゃして。それを見た時に、ワーカーさんが声を掛けてくださったらしくて。「いいやん行つてきたら」って。そういう一言というか、声を掛けてもらうためには、ワーカーさんにもこの取組の理解があつてこそやし、そこらへんの関係性とかすり合わせってすごい重要やなって思った。

いっせい：うーん、たしかに。

たかと：ちはるちゃんが言ってたけど、今回このプロジェクト自体が自分だけではできひんかったやろうし、自分たちが全然普段からセンターを利用していなくて、いきなりセンターに行って、「意見ください！」って言っても多分難しかったと思うし。その仲介的な存在ってすごく大きかったんだろうなって思った。

まい：仲介者大事よね。

たかと：仲介者大事やし、さっきの日常的な空間の中でどう意見を出していいか、声あげてもいいって思えるかっていうところは、やっぱり直接関わっている人もそうやし、そういう人から誰かを通じてか分からんけど、いかに必要なところに届けていいかっていうのは大事になってくるんやろうね。



参加型ワークショップの意味。

まい：今回は、アンケートや自分たちがセンターへ出向いてヒアリングもしたし、別でワークショップでの言い合う・聴き合うこともしたと思うんですけど、それぞれ感触は違いました？個人的には、反応してくれている感触がなんかちょっと違ったなってふと思って。

たかと：どういう違いを感じた？

まい：なんか、私自身もそうやけど、お互いに自己開示できるというか、言っていい場所なんだって思えると、安心感が全然違って構えないというか。自分のことをちゃんと話せる気がする。聞く立場と聞かれる立場みたいな対立構造っていうのかな、そういうのではない双方向の関係性もいいなと思って。もっとワークショップしたいなって思ったんですけど。

たかと：実際にワークショップをやってみて、いっせいはどうやった？

いっせい：ワークショップはやっぱり、共感してくれるっていうのが大きい。同年代の人と喋ったりすると、共感できるし、してもらえるし。それで意見が出しやすかったのもあるし良かった。

たかと：今回ワークショップを企画する時に、ちはるちゃんがすごい大事にしてたことやったと思うんやけど、自分たち（YCK）が意見を集める場だけじゃなくて、来てくれた人達に対しても、何か得てもらえるというか、来てよかったなって思ってもらえるようなきっかけとなることが大事だよねっていうのを意識してくれてたなと思っていて。それがあったからこそ、いろんな若者の声を聴く事例を紹介したりとか、大事になりそうな考え方を共有してから、みんなで話したからこそ出た意見の深みもあっただろうし、今回の報告書の第4章のところとかは、まさにその中で出てきた意見とかたくさんあるし。そうじゃなかったら、ここまで深いは出なかつたんだろうなと思うので、すごく良い機会だった。



ちはる：あれの何が良かったかって、ローテーブルなどが推しポイントで。やっぱテーブルの位置、低ければ低いほどいいかなって（笑）やっぱり、みんなで靴を脱いで、低いテーブルを囲む形式がハードルを下げるというか。立って話すんじゃなくて、座ってみんなで囲んでみたいのが良かったっていうことと、まいさんが言ってたけど、聞く側・聞かれる側じゃなくて、ファシリテーターを含めて全員が自分の思っていることとか経験談とかを話すっていうのが、あの場において大事やったんやなって思って。誰か一人でも、聞き役に徹しますっていう人がいると、あの空間って作れなかつたなっていうことをすごく感じていて。みんなが想いを発信できるし、みんなが受け取れるっていうのがすごい大事だなって思い返しましたね。

いっせい：あのイベント自体を若者（YOK）が主催したことと、そのワークショップに市役所の行政の方も来てくださつたっていう事実が、参加者の若者からしたら、それだけでメッセージ性があるというか、取組の本気度も伝わったんじゃないかなって思った。「今はこんなに声を聴く取組をやってるんや。じゃあ自分らも何かやらなあかんな」っていう気持ちになってくれていたら嬉しい。

たかと：実際、そのワークショップに来てくれた人達は、参加したあとに「こういう機会ってすごく良いなあ」って言ってくれて。だからこそ、「もっと取組のこと知りたい」っていう声もあったし、「また同じような企画があれば絶対参加したい」って言ってくれた方も結構いたので、やつたからこその変化もあったんだろうなって思ってます。

まい：みんな、部屋の時間いっぱいまで残って真剣に話してくれていて、シンプルに嬉しかったよね。

オンラインでの意見聴取について。

たかと：ちなみに、意見聴取の方法に関することで、今回自分たちはアンケートとか実際にセンターでのヒアリングとか、あとワークショップもしたけど、加えてオンラインでの意見募集もやつたじゃないですか。オンラインでの取組の手応えとかってどうでした？

いっせい：今回は、オンラインは正直、うーん、あんまり効果あったんかな？っていう感じ。効果がなかったのかは分からないですけど、対面で言った方が絶対伝わるし、聞き取れるし、対話する中で言葉の奥の奥の意味を読み取れるし。手段としてはいいけど、それは後の方の手段というか、もっと他に重要な聞き方とかあるなと思いますね。

たかと：ちはるちゃんはどう思う？

ちはる：やっぱりオンラインはオンラインで、自分の素性がバレないというか、深堀されないという安心感もあると思っていて。人間を前にすると発言できないこともあるなって。文字に書くっていうことが自分を表しちゃう感じがして、そもそも紙に書く時はあんまり深い内容を言えへんなと思ってたけど、オンラインはまだ書きやすいかなっていうのは思うから、何がダメとかじゃなくて、どういうふうに使っていくのかとか目的、どういう層にアプローチしたいのかで、今回やっていろいろなやり方があるし、聞く人も時間とか場所とかいろいろ設定できる中でちゃんと自分たちはこういう意識で人と会場を選びましたっていう信念じゃないんですけど、ちゃんと選んで設定していかないとダメだなって思いました。

たかと：たしかにね。実際に若者と直接話して、どんな意見の聞き方がいいかなって聞いたら、やっぱり「オンライン」って回答が多くかったかなと肌感としては思っていて。SNSを含めると、ある意味それが身近な存在だし、自分の好きなタイミングで発信できる、匿名性もあるってところももちろんあると思うので、それはそれで、その良さは有効に活用できたらいいと思うし、とはいっても、対面で対話することの良さとともに今回改めて気づいたところもあるので、そういういろんな方法をいかに重層的に取り組んでいくのか、いろんな人に広くアプローチできるのかっていうところも大事やし、そのためには取組の目的感。どういう人の声を集めたいのかみたいなところをしっかり検討しないといけないんだろうなっていう、その前準備がすごくやっぱり大事だなっていうのを改めて感じましたね。



まい：今回は意見聴取しながらも、永遠に準備してみたいな感覚はあったね（笑）

たかと：やりながら変えたところもいっぱいあるね。

ちはる：でもそれって、自分たちやからできたというか。ちょっとこのやり方だめやったんで1回なしでみたいなのとか。用紙のレイアウト変更も気楽にできたのも、このYCKやからこそっていうものもあるんやろなと。そういう強みをこれからも活かしていきたいなと思いつつ、京都市とか国とかも失敗を恐れず、うちらのことを被験者やと思って（笑）試験的にいろんなことに挑戦してほしいなって想いもありつつですね。

たかと：行政も柔軟性とか時間的な余裕はやっぱり限られるところもあるので、いかに他の人と団体とかを巻き込んでいけるのかも大事やし、今回みたいに若者に経験させて貰えたっていうのも大きななと思っていて。この取組を踏まえて、こちら側もはぐくみプランとか京都市政への見方も少なからず変わってくるんだろうなと感じたので、そういう体験も大事だなと思ったりもした。

リアルな困りごとって、言えてる？

まい：少し話は変わるけど、リアルな困りごとって、正直みんな言えてますか？悩んでいた当時でも今でも。

ちはる：正直全然言えてないし、最近までは別に言う必要も無いかなって思ってたところあったけど、意見を言う権利がというよりは、未来の子どもたちにとって生きやすい社会をつくるためにも、そういうのってどんどん言っていたほうが良いから。義務じゃないんですけど、それが自分のためだけじゃなくて他の人のためになるかもしれないねんなっていう意識を持ってないと、発言する気にならないというか。自分のためだけじゃ無くて、あの世の中、社会を変えるんやなっていう意識を持つてるとかどうか、持たないとなって思ったし。持たないとなって思うけど…ちょっと恥ずかしい。誰に言ったらどうなるんですか？

たかと：そうよね。ほんまにそうやと思う。

ちはる：ほんまに、いろんな悩み事を相談してくださいって言われるけど、「だからどうなるんやろう」みたいなものもあるし、「この困り事です」っていう風に名前があるものじゃないと発言しづらいというか。貧困とか虐待とか名前があるものじゃないと、「自分の責任かな」と思っちゃうけど、そうじゃないんだよって言える世の中にいていきたいですね。



まい：ね。困難さとして万人に認めていることじゃなくとも、言える機会とかきっかけとか、いろんな選択肢が転がってるといいなと思うね。言えてますか？いっせいくんは。

いっせい：いや、言えてないです。なんでやろ？なんでなんですか？言う場所がなかったし、言ってもどうにもならんって思ったし、そもそも人に言うべきことなん？って思ったし、あんまり口に出したくないし…、いっぱいあるっす。

たかと：言うのにもエネルギーかかるしね。ちはるちゃんが言ってくれはった「言ってどうなるの」みたいなところが結構おつきいんやろうなって思っていて。自分の中のしんどいなって思うところに向かいながら、それを言葉にするってめちゃくちゃしんどいし、それを誰かに言うってこと自体も大変やし、言ったとしてもその相手が困るんじゃないのか、何も変わらないんじゃないのかってなってくると、些細なことでも何も言えないみたいになっちゃうので。これから子ども・若者の意見反映が進んでいく中で、どういうふうにすれば「言ってどうなるの」ってところが変わっていくのかがポイントなのかなって思うかな。逆にまいちゃんは言えてた？



まい：え…言えてない。言てる人っていうのかな逆に。なんていうか、「言ってどうなるの」もそうやし、めんどくさいって言ったらちょっと違うかもしないけど、それが普通の感覚になってるっていうよりかは、これが私にとっての普通だからっていう風に落とし込もうとしてた部分はあったなって思って。どうこうしようとすると逆にめんどくさいことになりそうやから。

いっせい：え、そう。わかる。

まい：うん。めっちゃ重いけど、例えば虐待とかやたら、反抗するとか泣くとかっていうふうに反応すると余計にひどくなるから、ただただ耐えますみたいな状況が生まれるように、そんな感覚。やから結局、楽なのはそのまま、みたいな感覚はあったかな。

たかと：なかなかそれを変えようと思う方がしんどいよね。

とにかく、時間が足りない…！！！

まい：じゃあ次の質問。この取組をするうえで、困ったことや、これがあったらもっと良かったなって思うこと。もう1回こういうことをするとしたら、こうであつて欲しいみたいなことってありますか？

いっせい：時間でしょ。時間しかない。

たかと：ほんまに毎週かなりの頻度で、毎週1～2日はミーティングとか作業をしてたしね。

いっせい：ミーティングだけで月何時間したか気になって数えたんですよ、そしたら7月だけで、30～40時間はやってた（笑）

たかと：みんな、それぞれ学校とかアルバイトとか仕事とかもある中でやもんね。

まい：しかも別に家でやった作業とかもすごいある。

たかと：時間があればできるっていうものでもないけど、でもやっぱりなかなか余裕はなかったね。特にプラン改定の期限とかもあるからそれに向けてになるし。

まい：時間の余裕がないと、気持ち的にも焦ってくるから、頭の混乱状態がずっと続いてた。

たかと：じっくり声を聞きたいけど、その時間もどんくらい取れるかっていうのもあったりね。実際に今回は80件くらいの声が集まって、さらにワークショップとかユースワーカーさんへのヒアリングで聴いた声もある中で、どう報告書としてまとめていくのか、どうひとつの物にしていくのかっていうのが、量もそうだし、色んな意見があるからすごい難しかったと思うし。

いっせい：最後のほう嫌でしたもん、7月後半くらいからはミーティング行くのが（笑）

ちはる：嫌なときあったよね（笑）

まい：私はもっと早かったかも（笑）ヒアリングに行くのとか、楽しいって思うし、すごいやり甲斐があることをさせてもらってるなって思ってたけど、シンプルに体当たりして意見を聞くっていうのが慣れてないし。得意な分野ではないからすごい構えるし、精神的にずっと緊張感があつて。

いっせい：そう、行く前から緊張する。

たかと：そうやね、普段は自分たちが利用していない場所に結構な頻度で行って、意見聴取して、対話してっていうのをずっとしてたから大変やったよね。



伴走者と予算の重要性。

ちはる：見通しが立たないというか。先行きどうなるんやろうっていう不安が常にあって。「こういう風にやつていったら、こういう先が見えてきますよ」みたいに、経験した人とか京都市の方とかで、一緒に走ってくれるじゃないんですけど、手助けしてくれる人が必要だなって。今回関わってくださった京都市役所の方には、すご

い助けてもらったけど、こっちで結構進めて、完成したものを一回出して、みたいな感じの繰り返しで。それまでにいっぱい仕上げていかないと、っていう気概で進めてたことが多かったから。分からぬ状況でなんとかします、みたいなことが多くて。分からぬことを質問できる環境がほしかったというか。その道のプロフェッショナルに。

いっせい：ノウハウを持ってる人にね。

ちはる：そう、教えてもらえたらしいよね。この団体は、ユースワーカーさんが助けてくれたりアドバイスしてくれたりして、なんとか成立したけど、もし他の団体でそういう繋がりが無かったとしたら、ほんまに途中で「無理」ってなるやろうなっていうくらい、どういうプロセスでやっていきますっていうのが分らない状況でやっていくのは厳しいなって思うから。若者に関する事を進めますっていうときに、専門的に支援してくれたりとか一緒にやってくれるようなところがあったらなって。

いっせい：思い返すとよくやりましたね、僕ら…。

たかと：そうやね、確かに。結構いろいろ勉強しながらやったよね。こういう観点があるなとか、今こんな社会的な流れなんやなとか含めながら、どういうところを踏まえとかなあかんかって、みんなで学びながらできたのは良かったよね。



まい：たかさんはどう？次これをもう1回するとして、何が欲しいですか。

たかと：何が欲しいか…。なんやろね。同じ想いでできる仲間がやっぱり必要やなと思っていて。自分一人だけでは当然できないし、かといって人手がめちゃくちゃいたらできるかというと、必ずしもそうでもないなと思っていて。同じ目標を持って、押さえとかなあかんポイントとか大事な観点とかを、一緒に共有しながら進めていける人っていうのは必要なんだろなと思っていて。なのでもし、色んなところから個人個人が集まって、同じような取組をやるってなったとしたら、そのあたりがすごく大変になってくるところなんだろなと。うちはユースカウンシルっていう団体の中で、一定まとまりながらできたっていうのが良かった点かなと思いますね。

ちはる：確かに、確かに。

たかと：今回の反省というか、難しさをもうひとつ思い出して。自分の年齢的にもなんやろうけど、大学を卒業して以降の年代の声を集めるのって、さらに難しいなと思って。家とか仕事場以外に常にいる場所ってなかなか

ないし、そこに対してアプローチする方法もなかなかなかつたので、集めにくかった部分が正直あるなと思っていて。だからこう、仕事に就いてからの困難さとか、あるいは結婚や出産みたいな話ははぐくみプランにあるけど、そういうところはどうしても、今の自分たちには賄いきれなかつたなと思ったりはしていて、今後の要検討かな。

まい：逆にどこに行ったら出会えるんやろうね？

たかと：どこで出会えるんやろうね？そのあたりの難しさはあつたなど、ふと思い出しました。まいちゃんは？

まい：なんか考えてたけど忘れちゃつた…（笑）

たかと：交通費は？予算的なところとかぶっちゃけ。
まい：ケチやから、余計気になるところはあつた（笑）

たかと：やっぱりセンターが市内7箇所にあって、それぞれ遠いところもあって、そこに各メンバー行ってくれたから。当然、回数行けば行くほど良いんやけど、行くだけで交通費もプラスでかかっちゃうし。予算がなにか特別にあるわけでは無いから、そのあたりも負担しながらっていうのもあつたし。

ちはる：なんか、交通費の残高が減っていくごとに身削ってるなーとは思った（笑）結構入れたはずやのにどんどん減って、最終的には4円とかなつたから（笑）

一同：（笑）

ちはる：なんかほんまにギリギリで頑張ってたなって。

いっせい：ほんまにそれ（笑）電車降りてから、改札向かわずにチャージのとこ向かってたな。

たかと：まあそういうところも、もし次回あるのであればね。こちら側の安心感に繋がるし。

いっせい：京都市の補助とかあれば嬉しいね。
まい：これも大事な土台やしね。

取組を通じた、自分の中での変化。



たかと：すでに出てるかもしれないけど、逆にこの取組をやってみてよかつたとか、自分の中で変わつたなって思うところとかはある？いっせいはどう？部会（京都市はぐくみ審議会）への参加とかもあったと思うけど。

いっせい：部会、たしかに。色んな立場の違う人と話す機会ってなかなかないし。弁護士の方とか児童館の方と

か、こういう人らも関わるんやなって。幅広いなっていうのは思いましたね。勉強になったと思います。

たかと：あと、なんかちょっと自信ついた感あるよね。

いっせい：うん、自信ついた。おかげで集団面接も通つたし、ありがとうございます（笑）

たかと：ちはるちゃんは？

ちはる：ワークショップで、あんなに意見が出たのがすごいなって思ってて。そんなもともとは、まあ失礼ですけどこのプロジェクトに期待してなくて。

たかと：おいおいおいおい（笑）

ちはる：良い意味で、こんな出来になると思ってなくて。何が正解なのかも分からんかったから、その時は。どんだけ答えてくれるのかなとか、分からぬ中でやってみて、意外と聞いたら話してくれるとか、ワークショップでみんなで顔合わせたら盛り上がって、時間経つのがすごい早いとか、そういうことを経験できたのがよかったですというか。このプロジェクトで大人もすごい頑張ってるんやなって知れたし、若者も意見を言ったりとか言いたいことがあつたりとか、両方の世代が、それぞれ京都市を良くしていくっていう気持ちを持つことができたし感じたって思ったのが、すごいよかったです。

一同：（拍手）



たかと：やっぱり行政側の本気をすごく感じたというか。もっと丸投げかなとちょっとと思っていたし、とりあえず形だけ若者にも協力してもらうみたいな取組になっちゃうのかなと思ったけど、何回も何回も足を運んでくださって、一緒に議論して、悩んで、一緒につくりあげていったなっていう感覚がすごくあって。そこは自分も京都市で働きながら素晴らしいなと思った。

まい：中にいる人にとってもそういう感覚？

たかと：うん、いいなあって。そういうのを続けて行かなあかんなって自分自身も思つたし、すごくそこが良かったなって。そういう姿勢をみんなが見たからこそ、頑張ろうって思ってくれた部分もあつたやろうし、そういうところを感じましたね。まいちゃんは？

まい：なんか胸張れることやつたなって（笑）
たかと：たしかにほんまやね。

まい：今までのYOKでは、自分たち発で色々なプロジェクトをしてきたけど、需要と供給のバランスというか。

自己満足じゃないけど、ずっと何やってるんやろうとか、いいんかなこれで、みたいな。なんとなく消化しきれない感じがずっと溜まってたけど、ようやくやつと「これをしました！」ってユースカウンシル的に言えるものが仕上がったなって思う。

たかと：なかなか他のところでこういう取組してるところも無いね。

まい：ちはるちゃんと一緒やけど、私も正直そんなに期待してなくて。

たかと：おいおいおいおい（笑）

まい：はじめは全然期待できなかったけど、大人側の姿勢とかいろんな方向にすごいって思ったし、慣れてないけど、体当たりして意見聴取しに行くのとか、事業に入り込むとか、文書作成してとかデザインやってとか、ノウハウまでいかないけど、いろんな経験値が蓄積されてきたなっていうのはありますね。



次期「京都市はぐくみプラン」への期待。

たかと：改めて、次期はぐくみプランとか、あるいは京都市への今後の期待感とかはどうですか？

いっせい：プランをつくって終わりじゃなくて、いかにこれを京都市中や、京都市以外に住んでる人も含めて、これを浸透させるかが大事やと思うんですよね。つくっても知られなきや意味ないし、こういうことを行政としてはやってるから、もし困ってる人がいれば声をあげられるように。そういう、何かしらのメッセージ性っていうのを市民側に見せる必要があるのかなって思つたりしました。もう1個は、今回はユースカウンシルと行政っていう2つでやりましたけど、ユースカウンシル以外でも若者を巻き込んだりとか、京都市民巻き込んだりとか、行政だけがアクターじゃなくて市民ももちろん主役なんで、まちづくりをしていく上でやる必要があるのかなって思います。

ちはる：いろんな人を巻き込むのもすごい大事やと思うし、何かきっかけがあれば、ちゃんと意見を言う存在として私たち市民に京都市が期待して欲しいなって思つたし、その期待に応えられるような人でないといけないなっていう。お互いが信頼しあって、京都市のまちづくりをしていくっていうのが大事やなって思ったのと。やってみてようやく期待感が出てきたというか、なんかが変わるんかなって気持ちになったこともあったので、そういう期待感とかを、これからのことたちに持つてもらえるような社会にしていくぞっていう気持ちを、若者も

大人も持つて、社会をつくっていかないといけないなと思いました。

まい：そうやね、すごい共感したのは、ちはるちゃんのこどもたちが期待を持てるというか。将来に希望を抱けるじゃないけど、明るいイメージを持てるっていう感じ。そういうふうな雰囲気で過ごせるまちであったらいなって思うし。はぐくみプランへの期待というか、結局これをやるのって人間やと思うので、人間の姿勢としても、今回関わってくださったみなさんみたいに、積極的にいろんな立場からこういうことに関わって欲しいなって思うし。私たちとしても、今回きっかけがあつて行政の方との関係性が生まれたから、まちづくりをするいろんなツールの中で、これからもウインウインでいられたら、関係性をこのまま続けられたら嬉しいなって思いますね。

たかと：今回の取組をやって、本当にいろんな人と触れ合ったじゃないですか。若者もそうやし大人の人も含めてね。普段出会わない人たちと会って、色々な背景を持つてる人がいるんだなと改めて感じて。インタビューしたときも、本当に助けて欲しいときになかなか声出せないっていうところもあったりとか、自分では当たり前と思ってるけど、ちょっと離れたところからみると結構その状況やばいよ、みたいなこともあったりして、気づかぬうちにかなり深刻化してるっていう話もあったので、そういう風にならない、どんな背景とか家庭環境であつたとしても、そういう困難な状況に陥らずに、一人一人が自分らしく過ごしていくような京都市であつて欲しいなって思うのが1つかな。

たかと：もう1つが、こういう取組をして、これから次のプランができるいくけど、いっせいも言ってくれたようにこれで終わりじゃなくて、むしろここが逆にスタートというか。ここからが京都市において、大きなポイントになるんだろうなと思っているので。特に明らかに表出したような社会課題だけじゃなくて、日頃から溢れているとか、若者から出かけているようなところの声を、少しずつでも丁寧に拾つていきながら、それをきっかけにちょっとずつ、このまま良くなっていくっていう仕組みが今後もあり続けて欲しいなと思うので、そういうところを京都市に期待したいなと思います。そして自分たちもそれに向けて、ちょっとずつ何かできることができればいいなと思っています。っていうわけで。

一同：おつかれさまでした！！！





ワークショップでは、どのグループも積極的な議論が交わされ、それぞれの意見や思いが書かれた付箋が模造紙いっぱいに貼られた。参加者からは「また同じような機会があればぜひ参加したい」との声も聴くことができた。三時間弱に及ぶ長時間のタイムスケジュールとなつたが、時間が足りないと感じる場面も多々あり、非常に充実したワークショップを開催すること

各センターに設置されたアンケート箱（モヤモヤくんBOX）はポストをイメージして作成し、中に入っている紙の量が外から確認できるよう工夫した。中身が確認できることで自分の他に多くの若者が意見を出してみようと思つてもらうことが狙いだ。また、掲載許可が取れたものについては貼り出しを行うことで、他の人のモヤモヤと共に感じたり、自分の意見を形成するヒントになるよう工夫を施した。

写
真
紹
介



次期「京都市はぐくみプラン」の策定に向けて、貴重な声を聴かせていただいた、

各青少年活動センターの利用者の皆様、

ワークショップへ参加していただいた若者の皆様、

また、本取組へサポートいただいた京都市子ども若者はぐくみ局の皆様、

そして（公財）京都市ユースサービス協会の皆様へ、

この場をお借りして、心から感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

若者等への意見聴取報告書

— 次期「京都市はぐくみプラン（京都市子ども・若者総合計画）」策定に向けて

発 行 日：令和6年8月

編集・発行：ユースカウンシル京都 